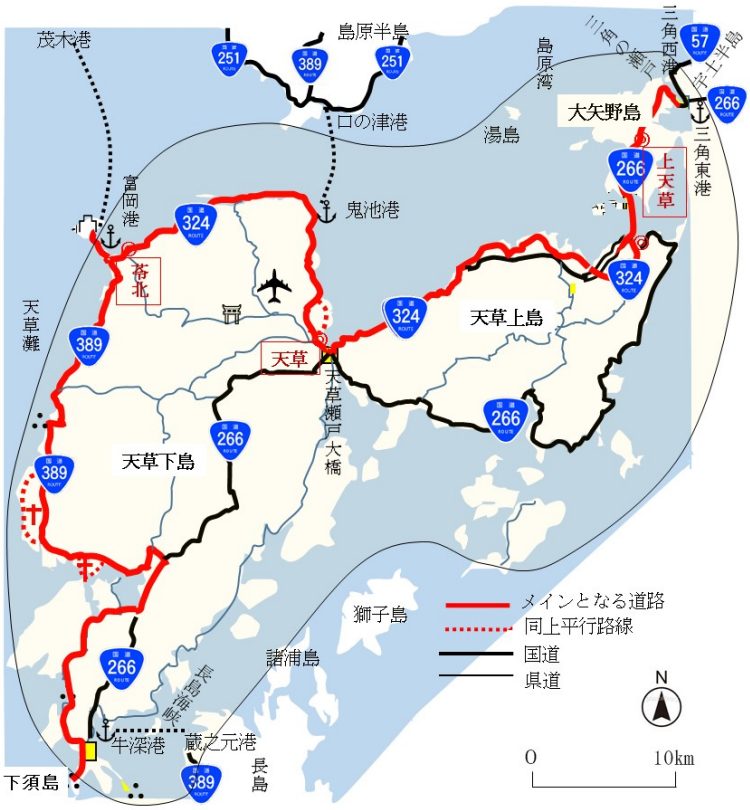
あまくさ風景街道

―天草島原の乱とジオパークの島を行く―



上天草市	人口 22,224人
天草市	面積 127㎢
75,769人	684㎢

計 105,024 人

2020年5月1日

人のくに、美のくに九州　(日本風景街道Q - 13)

① 天草松島と天草五橋（高舞登山展望所より）

目　次

―　天草の島々と島内交通　―

一　藍より青い海に浮かぶ天草の島々　・・・1
1　120の島が点在する天草
2　数奇な運命をたどった天草の人々

二　アクセスと島内の交通　・・・4
1　天草へいざなう多彩な交通手段
2　島内を周回する主要道路網
3　舫い船のように島々を繋ぐ天草の長大橋
4　船旅を楽しむ波静かな海の路

―　「あまくさ風景街道」とは　―

三　陸、海を行く「あまくさ風景街道」　・・・7
1　4ブロックに分けられるあまくさ風景街道
2　あまくさ風景街道のメインルートを一走りすれば
3　島の交通網を生かし回遊する「あまくさ風景街道」

四　天草の乱をたどり、天草ジオパークを巡る　・・・12
1　百姓一揆の「天草島原の乱」と南蛮文化の道を行く
2　海に浮かぶまるごと「天草ジオパーク」

―　「あまくさ風景街道」の4ブロックを巡る　―

五　八代海に面した大矢野島・天草上島を行く　・・・22
1　世界文化遺産「三角西（旧）港」から天草五橋を渡る
2　天草上島の国道266号を行く

六　イルカウォッチングの天草下島北部を寄り道する　・・・25
1　石橋と中世の城跡
2　鈴木重成代官と鈴木神社
3　イルカウォチング

七　南蛮文化の里と夕陽八景の天草下島南西部を巡る　・・・27
1　南蛮文化と世界遺産「崎津集落」をめぐり行く
2　夕日八景を眺めながら海中探訪の道を行く

八　御所浦島まち中の化石の路地を探る　・・・29

―　天草の情報　―

九　多彩な天草の祭り、食、宿泊等　・・・30
1　天草を代表する「牛深ハイヤ祭り」
2　各地に展開する天草のホテルなど
3　海・山の幸豊かな天草の食と特産品
4　天草の道の駅と情報センターなど

②　千巌山公園から湯島、松島を展望

④　天草の司令塔・富岡城(陸繋島）から富岡湾（巴湾）を望む

③　夕日に染まる妙見ヶ浦（天草市下田南）（国指定名勝、天然記念物）

天草の島々と島内交通

一　藍より青い海に浮かぶ天草の島々

１　１２０の島が点在する天草

天草の島々を眺めると、それらを囲む青い海が大変印象的で、年配者には４０年以上前のＮＨＫ連続テレビ小説「藍より青く」というのが思い出されるであろう。天草の若い女性が網元の息子に嫁ぐが、夫は戦死。その後、あの海があるからと信じての苦労と成功の物語である。タイトルは、言うまでもなく天草の青い海にもとづいている。

この藍より青い海に囲まれる天草は風光明媚で、わが国有数の景勝地であり、多くの人々を惹きつけてきた。島の各地にある歌碑などをみるだけでも、頼山陽、勝麟太郎㊴が、夏目漱石、与謝野鉄幹・晶子夫妻㉙が訪れていることが分かる。あるいは、林芙美子、司馬遼太郎などの来島もあった。

中には、鎮道寺（苓北町富岡）本堂の柱における勝麟太郎（海舟）の墨書もあるが、感動の作品が多く残されている。著者なりに気に入った詩をあげれば、

「天草の　島のあいだの夕焼けに　舟もその身も
染みて人釣る」
（与謝野寛（鉄幹））

口ずさみつつ瞼を閉じると、藍より青い海に溶け込み、海と共に生きる天草の人々の姿が浮かび上がる。

ところで、有明海、八代海、天草灘（東シナ海）の３つの海に囲まれた約５０㎞四方の海域（図１）における島々を総称して天草諸島と呼ぶ。熊本県南部から鹿児島県北部にかけて点在し、その総数は、１２０あるいはそれ以上といわれ、長崎県の九十九島（２０８）、五島列島（１４０）に匹敵する多島である。これらのうち、熊本県下は約１１０で、同県における島の２／３がここ天草に集中している。残りは鹿児島県である。

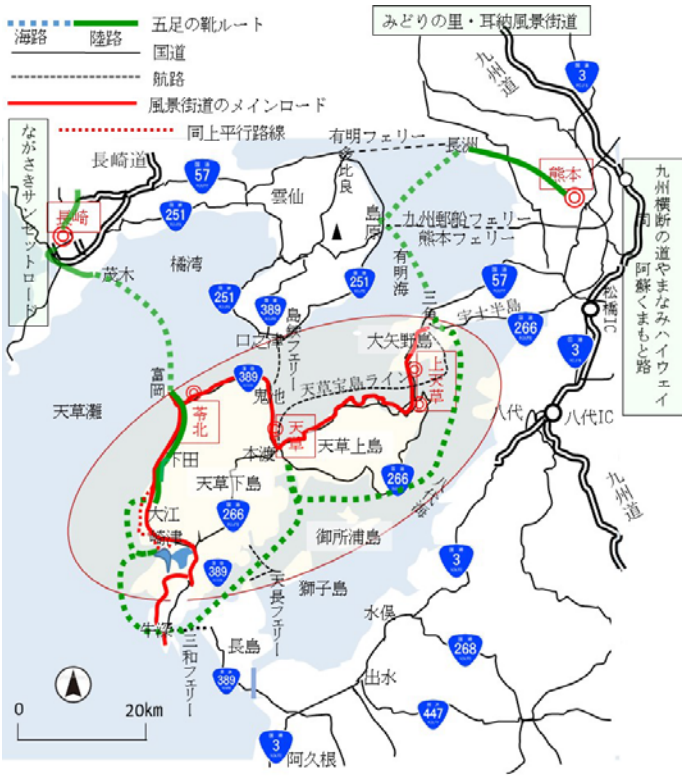


図１　紀行文「五足の靴」にもなった天草諸島と隣接地域

〝天草〟は、古事記に出てくる「天両屋（アマノフタヤ）」という島の名が転化したといわれている。海辺に住み、漁を生業としていた海人族の島⑤である。あるいは、勝手な解釈だが、〝天〟は天空にも海（あま）にも通じ、〝草〟は日（くさ、太陽）を意味し、これら3者が一つに会する島とも考える。

一方、天草下島に、苓州の北部を意味する「苓北町」がある（図１）。これは、苓が甘草（あまくさ。かんぞう。マメ科の植物）で、それにかけて天草を漢名で〝苓州〟と呼んだことに由来している。天草を歩けば店の屋号や社名、とりわけ飲食店に〝苓州〟を用いたものに遭遇する。

現在の天草諸島の中で有人島は、熊本県で１８、鹿児島県で４である。それらの中で天草下島（しもしま）が最も大きい。面積５７４㎢は、本州など４島を除くと、我が国で８番目である。九州（沖縄を除く）では奄美、対馬に次ぐ３番目だが、人口は６万人を超え、対馬の２倍に達する。

２番目に大きな島は天草上島（かみしま）、面積２２５㎢、人口３万人超。以下、順に長島（９１㎢）、大矢野島（３０㎢）、獅子島、御所浦島とつづく。

天草下島、上島を主にして、熊本西南部および鹿児島の西北部海域の有人、無人の島の集まりが天草諸島であり、ちょうど九州西海岸の中央に位置している。

⑤　今も盛んな天草の素潜り漁（通詞島沖）

あるいは、古くは、長崎・佐賀から阿蘇・熊本一帯を〝肥（火）の国〟と呼んだ。雲仙普賢岳、多良山系、阿蘇山と火山が多いことによるとの説もあるが、うち長崎・佐賀を〝肥前〟、阿蘇・熊本を〝肥後〟と称した。天草は、肥後とはいえ、後でもなく、前でもない。まさしくそれらの間にある島々である。

2　数奇な運命をたどった天草の人々

こうした天草の島々に、いつごろから人が住み着き、どういった歴史をたどったのだろうか。島とはいえ、九州のへそに位置することから、九州、場合によっては我が国の歴史を物語る大きな出来事に遭遇し、多くの人々が訪れている。

★　続日本紀などによれば

続日本紀によれば、７４４年、洪水のさなかに大地震があり、天草郡（おおむね天草諸島の範囲）で田２９０余町、民家４７０戸、犠牲者１５２０余名の被害があったと記されている。これからすれば、少なくとも８世紀（奈良時代）には犠牲者数に数倍する多くの島民が暮らしていたと推察される。

あるいは、必ずしも比定はできないが、平安時代の中期の和名抄に天草郡では波太、天草、志記、恵家、高尾の５郷の記載があり、鎌倉時代には、藤原純友の乱で功を成した大蔵春美の末裔といわれる天草種有が、天草下島・本砥（本渡）の地頭職に任じられた。筑前の原田氏や秋月氏、筑後の草野氏、豊後の日田氏などと同じ大蔵の流れである。

また、元寇の役で肥後御家人竹崎季長が描かせた蒙古襲来絵詞の中の大矢野氏が大矢野島に、肥後を拠点とする菊池氏の一族・志岐氏が天草下島北部にいた。つまり、船で渡る島ながらも、古くから、九州各地とかかわり深い国人領主が天草に群雄割拠していたことが理解できる。

その後、十四世紀の南北朝時代には、北朝方と南朝方に分かれての激しい争があり、天草８氏、後にしぼられて天草五人衆（天草、志岐、栖本、上津浦、大矢野の各氏）が天草郡を支配した（図２参照）。しかし、争いは絶えなかった。加えて、肥前の有馬藩が介入。あるいは、島津の分家・薩洲家による侵攻があり、長島、獅子島などが肥後国天草郡から切り取られ、薩摩国出水郡に組み込まれた。図２と表７の図を対比すると分かるように、この時の地域の分割状況は今もなお地名として残るところがある。

図２　天草の国人五人衆時代の勢力図と今に残る主な城跡

★　富岡藩（天草藩）の誕生

そして、とどのつまり、豊臣秀吉の九州平定に天草も飲み込まれた。天草五人衆は、当初、肥後の佐々成政、後に宇土の小西行長の配下となった。あるいは、宇土城普請の命に従わず反乱を起したものの（天草国人一揆）、小西行長に鎮圧された。ところが小西行長がまた関ケ原の戦いで西軍方について敗れ、処刑された。

これで次は島民の出番とならないのが封建社会である。天草は肥前の唐津藩（譜代）の飛び地となり（１６０１年）、富岡城㉘が築かれ、城代が置かれた。先に、天草諸島を肥前、肥後の間とわざわざ記したのはこのことを意識してのことである。

ざっと見ただけでも天草は中世から近世にかけて目まぐるしい統治者の争いと移り変わりがあった。しかも、島といえないほど島外からの深い介入があり、島民には迷惑と苦難の連続であり、搾取に次ぐ搾取であった。その中で、１５６６年、大分にいたルイス・デ・アルメイダによりキリスト教が伝えられ、心の支えをえたものの、１６３７年、周知の天草島原の乱が勃発し、徹底的に鎮圧された（四章１節）。

乱の後は、その立て直しにと山崎家治が４万２千石で富岡藩（天草藩）に入封。新田開発に努めたが、１６４１年に讃岐丸亀藩に転出した。その後、天草は天領となり、三河武士の鈴木重成（しげなり）㊴が代官に任ぜられたが、この時、彼は、改めて検地した。その結果、表向きの石高は実際の半分に過ぎないことが分かり、さすがにこれではひどいとの思ったのか直ちに幕府に直訴した。しかし聞き入れてもらえないままに亡くなったが、養子の重辰（しげとき）が２代目の代官となり、奔走した結果、６年後の１６５９年になってようやくに認めら

れた。この間、あってはならないが、領民は収穫の全部を年貢に取り立てられる状態であり、食うや食わずの大変な重税に苦しんだことはいうまでもない（六章２節参照）。

以後、重辰自身は転出するも、富岡城は、約７０年間、受け継がれたが、戸田忠昌が富岡藩の藩主として赴任した際に、領民の負担になるとして三ノ丸のみを陣屋として残しつつ、本丸、二の丸は破棄された（１６７０）。また、島は貧しく藩の維持が難しかったことから、幕府直轄であるべきとの忠昌の主張で富岡藩は再び天領にもどされ、三の丸を代官所として用い明治維新を迎えている。

★　島原大変、肥後迷惑

前述したように、乱が終わり、石高問題が解決するなどで、天草も落ち着いたかにみえたが、今度は島原半島での雲仙の火山による地震災害に見舞われた（１７９２年）。加えて稀有なことだが、地震で雲仙岳に付随する眉山（標高８１９ｍ）に亀裂が生じ、まさかの山体崩壊があり、津波が発生、対岸の肥後国を襲った。有名な言い伝え「島原大変・肥後迷惑」の出来事である。高さ数メートルにも及ぶ津波が有明海に面する肥後に押し寄せ、天草の北部沿岸域だけでも３４３名の犠牲者が出たといわれている。当時の貧しい漁民や農民の家屋、生活からすればひとたまりもなく津波にのみ込まれ、悲惨だったことが容易に察せられる。

いまも島の各地に津波の犠牲者の供養碑が残る。苓北町富岡新町寿覚院西生庵境内、天草市五和町鬼池・若宮公園内、天草市有明町赤崎の碑などである。また、天草市五和町御領には津波石が打ち上げられ、教訓にと天然記念物に指定されている。

こうしたさまざまな苦難を乗り越え、天草も明治を迎えたが、その行政がこれまたキャッチボールの扱いを受けた。すなわち、幕末の肥後国天草郡は長崎奉行の管轄下にあったが、その後身の長崎裁判所から分立して富岡県となり、すぐに天草県に名称を変えた。ついで、長崎裁判所は長崎府となり、その配下に戻されたが、明治政府による廃藩置県後は、八代県に編入され、さらに白川県と合併し、熊本県となった。

そして、戦後の昭和の大合併や平成の合併を経て漸く今日の市町村体制、天草市、上天草市および苓北町の２市１町となり、落ち着いた。なお、この間の１９９０年に、

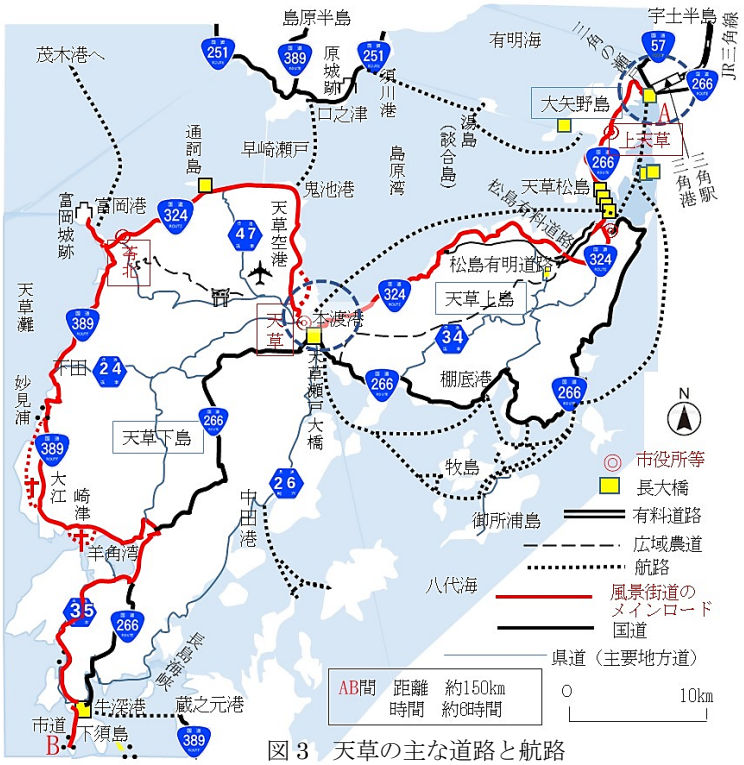


図３　天草の主な道路と航路

雲仙普賢岳が１９８年ぶりに噴火した。その際、１７９２年の災難を思い起こし、心配する向きがあったことは確かだが、杞憂に済んだことは幸いである。

要するに、天草の歴史を振り返ると、風光明媚だが決して平穏無事ではなかった。幾度もの大災害に見舞われ、島内の権力闘争、周辺諸藩の武力介入、厳しい年貢の取立て、キリシタン弾圧など。長い間もがきにもがき、歴史の中で翻弄され続けた。夏目漱石は、熊本市西区河内町の野出峠で、

「天草の　後ろに　寒き　入日かな」

と詠んでいる。勝手な解釈だが、前述のさまざまな出来事と思い合わせると、数奇な運命をたどった昔日の天草への思いやりとみることもできよう。

天草が、現在のような観光地として広く注目されるに至ったのは、１９５６年、雲仙国立公園に編入され、「雲仙天草国立公園」になってからである。あるいは、１９６６年に、悲願であった天草五橋⑩が完成してからである。

橋から橋と宇土半島から牛深までの道がつながり、折からのモータリゼーションの進展もあり、多くの観光客が押し寄せるようになった。橋建設費の償還期間３９年はわずか９年で完了したほどだが、こうした内外に広がる交流社会の形成こそが天草にとって極めて大切である。あまくさ風景街道はこの点に着目し、自然の景勝地、歴史遺産をつなぎながらの、島の人達によるまごころともてなしの活動として構築されたものであり、地方創生への道を目指すものである。

なお、〝天草〟について、天草上島などはあるが、これを単独に冠した島名はない。これは阿蘇山や九重連山に同じである。そこで、本文の対象地域である熊本県下の天草諸島について、以降はその地域名として〝天草〟を用いることとする。

「天草の　松島ここに浮かぶなり　西海のいろ　むらさきにして」

（与謝野晶子、上天草市松島町合津）

同じ歌の中に西海、天草、松島の使い分けがある。天草をよく知る与謝野晶子だから

こその歌といってよく、その中の天草は本文に通じる意味をもつ。

二　アクセスと島内の交通

1　天草へいざなう多彩な交通手段

★　九州本土と変わりない陸海空のアクセスが可能な天草への道

ところで、天草へ出かけるには、地理的条件から、域外との往来は道路網だけでは不十分である。しかし、幸いにも島内に天草空港がある。隣接した地域とのつながりで九州新幹線や九州自動車道が利用できる。これらから、陸、海、空にわたる幾通りものアクセスが可能であり、島にしては大変便利で、広く国内外の諸地域と結ばれている（図３参照）。

天草市五和町の天草空港は、中心市街地にある本渡バスセンターからわずか１５分のところにある。福岡から１日３往復があり、所要時間は３５分。熊本・大阪からは１往復／日で、熊本・天草間は２０分である。小回りが利く小型機で、福岡、熊本の市内交通と変わりない移動時間であり、まさに一飛びの距離である。

一方、九州新幹線を熊本駅で降りると、愛称「あまくさみすみ線」（三角線）が接続している。普通列車が１時間に一本程度運行され、宇土半島の先端三角駅⑥まで約１時間でたどりつく。特に、土日・祝日を中心に、人気の特急列車〝Ａ列車で行こう〟があり、人気である。Ａ-Ｔｒａｉｎ　Ｂａｒで、ドリンク片手に音楽を聞きながら、また、有明海の織物とも見間違える干潟模様を眺めての贅沢な九州ウェスタンの旅が待ち受けている。終着・三角駅では、目の前の三角港から天草宝島ラインのシークルーズ⑦が接続。天草五橋や松島の美しい景観を眺めての、松島、本渡への快適な船旅を楽しむことができる。むろん、天候が悪くても慌てることはない。船に代る路線バスがあり安心である。

車は、福岡、熊本から九州自動車道の御船や松橋（まつばせ）インターを経由し、国道５７号または２６６号で三角へ。さらに大矢野島、松島、本渡へと進めば、一部を除いて天草の各有人島にそのまま渡ることができるが、同様の区間を高速バスが走っている。超快速、快速の「あまくさ号」、またはその乗り継ぎだが、詳細は、福岡市・天神および博多の両バスセンター、熊本市の熊本交通センター（０９６-３２５-０１００）、天草市の本渡バスセンター（０９６９―２２―５２３４）に問い合わせるとよい。

船旅については、前述の三角港～松島・本渡港の他に、さらに３つの航路があげられる（図３および表２下段）。一つは、島原半島の南島原市口之津港から天草下島の鬼池港まで片道約３０分の島鉄フェリーである。そして２つ目は、長崎市の茂木港と富岡港との間の高速船（苓北観光汽船）であり、１日４往復、４５分で結ばれている。

そして、３つ目は、天草下島の南端・牛深港と鹿児島県の長島町・蔵之元港との間で、１日１０往復のフェリーがある。蔵之元港と九州新幹線出水駅との間は、出水・天草ロマンシャトルバス（６５分、５往復）が運行されている。

こうした各交通手段の充実から、天草の交通環境は、島とはいえ、九州本土の諸地と変わりない。むしろ、それ以上の多彩なアクセス手段およびルートを持っている。マイカーやレンタカーはいうに及ばず、九州新幹線、あまくさみすみ線の「Ａ列車で行こう」や、天草エアライン、高速船「シークルーズ」、高速バス「あまくさ号」、出水からのロマンシャトルバス等々。特色あるユニークな公共交通機関がそろい踏みである。５つも、６つも交通手段を変えながらの旅はそれ自体様々な車窓を提供する風景街道でもある。

⑥　天草への玄関・ＪＲ三角線三角駅（国道 266 号沿い）

⑦　シークルーズ（三角～松島～本渡）

⑧　特別記念物”出水の鶴”（越冬：10 月中旬～3 月）

★　世界遺産「三角西（旧）港」と特別天然記念物「出水の鶴」にいざなわれる天草

天草への南および北の玄関口がまた豪華である。南の玄関といえる出水（鹿児島県）は、国の特別天然記念物・鶴の渡来地⑧である。シベリアの北方からナベヅルをはじめ、マナヅル、クロヅルなど1万羽を超える鶴が、天草、長島、出水のルートで、越冬のため飛来する。

他方、北の入り口は「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、その一翼を担う明治の港〝三角西（旧）港〟⑨がある。

⑨　世界文化遺産・三角西港（国道 57 号沿い）

〝特別記念物・出水の鶴飛来地〟と〝世界文化遺産の三角西港〟。天草は自然と文化の香りが高い表玄関を2つも持つ。そして、その間に多様で便利な勝手口ともいえる前述の空、海の諸港があり、これらがいざなう「天草への道」は、アクセスそのものがまた風景街道であるといってよい。これは、天草が九州西海岸の中央に位置し、ユーラシア大陸に直接面し、早い段階から世界と繋がる南蛮貿易や文明を受け入れる中継点の一つであったことによる。

天草の西高浜のしろき磯　江蘇省より秋風ぞふく　（与謝野晶子）

江蘇省は、天草と同じ緯度をなす長江河口の地方であり、その南は上海市が隣接する。

2　島々を周回する主要道路網

天草下島、天草上島、大矢野島が天草を構成する主要3島であり、それらとその周辺の10を超える島々が、いまや橋々で宇土半島ともやい船のようにと繋がれ、道路網を形成している。

図3にその道路網の概況を示す。国道266号、324号、389号がある。これらが部分的に重なりながらも島々に行きわたるかのように周回している。

まずは国道266号だが、熊本市から八代海を見ながら宇土半島へ。そして、天草五橋⑩を経由し、天草上島の東、南の海岸を周回して天草瀬戸大橋に至り、そこから天草下島を縦断し、牛深に至る。つまり、天草の主要3島を縦断する幹線道路である。

一方、国道324号は、長崎市の中心から茂木港を経て富岡港に渡り、さらに苓北町、天草下島、上島の北岸を通過。天草五橋からは国道266号と重複し、それを渡り終えると宇城市三角町の五橋交差点に行き着く。この交差点で左右に折れれば各々近接したところに三角西港、三角東港（現代の三角港）がある。

国道389号も海上国道である。福岡県大牟田市から玉名市を経て島原半島に渡り、口之津港から再び海を渡り鬼池港（天草市）に上陸。天草下島の西海岸を南下して牛深に抜けると鹿児島県の長島町に至る。ちなみに終点は黒之瀬戸大橋を渡った先の阿久根市である。

以上の他に、国道57号が宇土半島の有明海よりを通過。熊本市方面から三角までのアクセス路として、国道266号と対を成すように半島の海岸域を通過し、重要な役割を担っている。前述した世界文化遺産・三角西港はこの国道57号線沿いにあり、整備も行き届き、恰好の寄り道として見逃しにできない。

結局、57号を含め、国道4路線が天草の内・外を結びつけ、周回する重要な道路

である。そして、これらに結びつく航路と橋々（次節）があり、天草の島々を多様なルートで巡ることができる。

島内の各地へは、これら国道に加え主要地方道（県道）が補完している。また、熊本・天草間には地域高規格道路が建設中で、一部区間（松島有明道路、松島有料道路）⑫は既に開通済みである。さらにいえば、天草上島の中央部、下島の北部に２本の広域農道があり、利便性の向上に寄与している（図３の点線）。

こうした島内外をつなぐ道路網の充実ぶりから、あまくさ風景街道を車で周回することは、一部の山道や末端の細街路、および道幅が狭く慎重なすれ違いが求められるトンネルや橋の区間さえ気をつければ問題はない。むしろ橋を渡るごとに、有明海、八代海、天草灘と、それぞれに異なる海洋景観が眺望され、飽きることのない開放的なドライブができ興味がそそられよう。

３　舫い船のように島々を繋ぐ天草の長大橋

島の人々にとり橋を架けることは果てしない夢であるが、戦後の１９５３年の離島振興法の成立で、その実現に向けた動きが活発化した。ここ天草も同法の指定地域となり、天草架橋発展期成会が設立され、その努力を経て１９６２年に起工され、１９６６年、念願の天草五橋⑩が完成した。

また、それら以外の天草の主な長大橋の整備状況を表１に示す。１９７０年代に天草瀬戸大橋など多くの橋が建設された。まるで様々なタイプの橋を陳列するかのように、アーチ、箱桁、トラス、吊橋と並ぶが、最長は牛深ハイヤ大橋㊷の８８３ｍである。そして、現在では、熊本天草幹線道路の整備に伴い幾つかの長大橋が追加され、また天門橋⑩のすぐ横に三角大矢野道路の一部として天城橋（てんじょうきょう）が完成し、加えて天草上島と下島とを結ぶ２つ目の長大な橋・新天草瀬戸大橋の建設が予定されている。

ちなみに、天草の各島への経路について、宇土半島の三角から海を渡り繋がる橋の数は、新天草瀬戸大橋の建設を加えても、桶島、通詞島および下須島が最大であることに変わりなく、いずれも７つを数える。これは、苦労しながらも、時代の流れの中で、島から島へと橋を建設しながら、舫い船のように繋いできた結果である。島民にとって、今にして振り返れば、よくぞここまでと様々な苦労が思い出されるであろう。

その上での島民の願いは、過去の苦難を乗り越えた島々の活動を活発化さることであり、その努力を踏まえつつ、風景街道を提唱し、天空、海および

4号橋・前島橋

1号橋・天門橋

2号橋・大矢野橋

5号橋・松島橋

3号橋・中の橋

橋の名称	形 式	全長 m	径間数	最大径間長m	完成年	備 考
1 天門橋	鋼、トラス橋	502	3	300	1966	土木学会田中賞
天城橋	鋼PC複合アーチ橋	463	5	264	2018	アーチ支間350m
2 大矢野橋	鋼、ランガートラス橋	249	3	156	1966	
3 中の橋	PC、箱桁橋	361	3	160	1966	
4 前島橋	PC、箱桁橋	510	5	146	1966	
5 松島橋	鋼、パイプアーチ橋	178	3	126	1966	

⑩　様々なタイプの天草五橋（天草パールライン）

太陽が一点に会するあまくさ風景街道を組み立て、国内外諸地域からの来訪を待っている。

4　船旅を楽しむ波静かな海の路

架橋の夢が実現したとはいえ、完全ではなく、船旅によらざるを得ないこともあり、あまくさ風景街道との関係で有用と思える定期航路を図３に点線で示す。全てでなく天草の回遊を主にすれば、御所浦島への航路として、御所浦港と本渡港（天草市港町）、棚底港（天草市倉岳町）を結ぶものが利用できる。また、基幹であり、観光航路ともいえる三角～松島前島～本渡の各港を結ぶ航路がある。いずれにしても波静かな有明海、八代海の船旅で、日常経験することができないものだ。警笛の音とともに岸壁を離れるとき、海に浮かぶ島が折り重なるように見える中で、いいようもない感動を覚え、島を離れる別れと、島陰に繋がる藍より青い海への期待が混じり合う思いである。

とはいえ、交通手段としてみると、航路によっては便数が必ずしも十分でない。また、旅客船かフェリーか、途中の寄港の有無、季節や曜日による運航スケジュールの違いがあり、時には天候に左右され、運航中止もある。したがって、島々を巡る回遊ルートを計画するとき、具体的には港や運航会社に事前に問い合わせ（表２）、時を計っての船旅の計画も大切で、それもまた旅の楽しみであろう。

表１　天草五橋以外の長大橋

橋の名称	形式	全長 m	径間数	最大径間長	完成年	備考
野釜大橋	PC、ラーメン橋	295			1980	大矢野島～野釜島
西大維島	鋼、2連ランガー桁橋	238			1974	大矢野島～野牛島
東大維島	鋼、吊橋	380		264m	1975	大矢野・野牛島～維和島
樋島大橋	鋼、吊橋	291			1972	天草上島～樋島
天草瀬戸大橋	桁橋	703			1974	3代目。取付部はループ
通詞大橋	鋼ランガー桁	184	3		1975	天草下島～通詞島
牛深ハイヤ大橋	鋼、箱桁橋	883	7		1997	臨港連絡橋，土木学会田中賞
熊本天草幹線道路（松島有明道路）						
倉江大橋					2007	倉江川
楠浦大橋	PCと鋼の混合橋	635			2007	楠浦川

表２　天草の主な航路と問合せ先電話番号

運航会社	航路	問合せ先	
天草宝島ライン	本渡―松島―三角(宇城市)	シークルーズ	0969-56-2458
湯島商船	湯島―江樋戸(大矢野島)	昭和丸	0964-56-4060
		菊盛丸	0964-56-4063
山畑運輸	倉岳―御所浦―小屋河内(上天草市龍ヶ岳町)		0969-64-3306
共同フェリー	龍ヶ岳―御所浦		0969-67-3305
	倉岳―御所浦		〃
天草観光汽船	倉岳―御所浦―本渡		0969-58-2021
栄汽船	御所浦―本渡		0969-67-3011
島鉄フェリー	鬼池―口之津(南島原市)	鬼池港	0969-32-1727
苓北観光汽船	富岡―茂木(長崎市)	富岡港	0969-35-0705
天長フェリー	中田―片側、諸浦(長島町)	中田港	0969-42-2232
	中田―諸浦(長島町)		〃
三和商船	牛深―藏之元(長島町)	牛深港	0969-72-3807

注)赤字はあまくさ風景街道区域外の港

⑪「五足の靴」が歩いた〝がりがりの道〟（階段先の山道）

三　陸、海を行く「あまくさ風景街道」

――「あまくさ風景街道」とは――

話は変わるが、明治末期の１９０７年、与謝野寛(鉄幹)と若い文学青年４人(北原白秋、木下杢太郎、吉井勇、平野万里)が九州を旅した。そのときの文学作品が「五足の靴」である。当時の汽車、鉄道馬車、汽船、乗合馬車を乗り継ぎ、福岡、柳川、唐津、平戸、佐世保を経て長崎へ。そして茂木港から苓北町の富岡港に渡り、富岡から大江までの３２㎞の道を歩いている。図１に示す天草下島の緑色実線の区間だが、その際の寄稿文が、東京二六新聞に掲載された。

「富岡より八里の道を大江に向かふ。難道だと聞いた。天草島の西海岸を北より南へ、外海の波が噛みつくがりがりの石多き径に足を悩ましつつ行くのである。土地痩せたる天草の島は稲生を作るのに適せぬ、山の半腹の余裕なき余裕を求めて甘藷（かんしょ）を植ゑる。島民は三食とも甘藷を食ふ」。

天草諸島は、明治になっても苦難から逃れられず、国道は酷道、県道は険道であり、甘藷で飢えをしのぐ暮らしであった。そうした状況でも５人がわざわざ天草を訪れた目的は、大江教会の司祭ガルニエ神父㉑から話を聞くことであった。海を渡り、がりがりの径⑪を歩んだからこそ、敬愛する神父に会え、その信仰や苦労を聞くことができ、南蛮文学を切り開く道が成就した。

その後一行は、大江から汽船で崎津、魚貫（おにき）、三角を経て島原へ。そして長洲（ながす）、熊本、阿蘇。さらに、白秋の生家・柳川に逗留し、東京に戻り、それぞれに新たな文学の道を切り開いた。

あまくさ風景街道は、熊本県の天草市、上天草市、苓北町の２市１町の官民のパー

トナーシップによる活動である。九州にあって、島のみをつないで1つの風景街道にした唯一のものである。「五足の靴」がたどったコースは、本風景街道の西海岸を歩いたものであり、大江からの船による牛深や八代海や有明海の船旅も含めて2市1町を巡る本風景街道の原形をなす。いわば元祖・あまくさ風景街道である。

天草の道から南蛮文学が開花したように、「外海の波が噛みつくがりがりの石多き径」は、いまでは藍より青い海と夕陽でむらさきに染まる自然豊かな風景の道、文化の道、ビッグな歴史の道、暮らしの道へと変身した。戦後ではあるが、島を周回する国道⑭が整備され、路傍の花壇には島の人達による手入れのいき届いた花が、訪れる人を歓迎するかのように咲き誇っている。

「三食とも甘藷食らう」どころか、豊富な海や山の幸を堪能する食の道である。対馬海流流れる天草灘、漁火浮かぶ八代海（不知火海）、わが国最大規模の干潟有明海と、三者三様の海からのめぐみ、その意味での三食（色）の漁が目白押しである。これほど多彩な海に出あえるところが他にあるだろうか。自然と直に向き合いながら人の営みが織りなす過去と現代文明の道をたどるからこその「あまくさ風景街道」である。そして、その重要テーマが次章に述べる天草島原の乱と天草ジオパークである。

1　4ブロックに分けられるあまくさ風景街道

島とはいっても、あまくさ風景街道を1日で巡ることは無理である。自然と文化、歴史の薫り高き表玄関に始まる本風景街道を行くには、ある程度の日時が必要である。また、流出入箇所が分散する島から島への回遊であり、船もとなると運航時間が限られる。これらを考え合わせれば、風景街道地域をいくつかに分割し、無理せず、繰り返し訪れることをお薦めしたい。

前章に紹介した道路網や空、海の航路網、そして地域資源の多彩な展開を踏まえると、本地域は大まかに4つに区分できる（図4）。大矢野島・天草上島（以下、上島と略す）、天草下島北部（下島北部）、天草下島南部（下島南部）、および御所浦島であり、各々の概要はつぎのとおりである。

①大矢野・上島　三角西港、東港を含め、大矢野・上島地区は上天草市とその周辺地域である。図2の天草五人衆でいえば、大矢野、上津浦、栖本各氏が治めた地域である。中央に八代海と有明海がつながる景勝地・天草松島②がある。そこに、天草パールラインの要である天草五橋①、⑩が架かり、まるで島々が橋で縫い合わされるかのような光景が展開する点で特色がある。

②下島北部　天草市の中心市街地・本渡から苓北町に至る一帯が天草下島の北部地区である。海岸沿いの国道324号を走ると、早崎瀬戸を挟んで、対岸の島原半島口之津港と向き合い、戦国時代には天草氏、志岐氏がしのぎを削った地域であるが、江戸時代には天草島原の乱や、その後の天領天草の指令塔になった富岡城㉘が存在した区域である。

③下島南部　天草市の南部は、戦国時代には天草最大の地頭・天草氏の本拠地であり、河内浦城、高浜城、久玉城、大江城などと一門の城が多く築かれた。景勝地③や夕陽を望む箇所㉙が実に多く、また南蛮文化の花が咲いた郷である。あるいは、西海岸からさらに西を望めば、見渡す限りの海原があり、水平線以外に遮るものはなく、中国・江蘇省へ一直線である。

④御所浦　以上はいずれも橋でつながる地区だが、それらと直接つながらないのが御所浦島地区である。八千～1億万年前と気が遠くなるような古い時代の地層から恐竜

図4　4ブロックに分割される〝あまくさ風景街道〟

⑫　岩山を突き抜ける松島有料道路

や貝の化石㉜が多数発見された珍しいジオパークの島々からなる。本地区の島に渡るには三角、本渡、棚底、大道の各港からの定期航路（表２）および海上タクシーがある。

要するに、それぞれで趣を異にする４つの風景地区がある。例えれば、天草上島が玄関の間、下島北部が応接の間、下島南部が奥座敷、そして御所浦が離れの間であり、一つに繋がる。あるいは、その逆もあるが、これらの４地区は、それぞれの暮らしがあり、異なる風習や地域資源がある。それらを眺めつつ、人懐っこい島人たちとの交流を楽しむことこそが、あまくさの風景であり、神髄である。躍動と癒しの道。老いも若きも、子連れも友達同士も、それぞれの好みとスタイルで天草をドライブすることができ、島歩きやオルレが堪能できる。

２　あまくさ風景街道のメインルートを一走りすれば

あまくさ風景街道は、天草地域を対象とし、前章に述べた交通網の中で、主として図４に示す赤線の道路をメインルートにする沿線地域である。大矢野島、天草上島、天草下島の有明海よりを周回し、下島の西海岸を南下、牛深の先端・下須島に至るルートである。国道２６６号、３２４号、３８９号、そして南部で２６６号と合流し、その南端では県道３５号、市道と繋がるルートである。後述するように、これらは路線バスや観光周遊バスも走行していることからドライブするにしても特に問題となる区間はない。

メインルートに沿って進めば、藍より青い海、夕日の中で紫に輝く海との出会いがある。沿岸、内部のいたるところにあるビュー・スポットに立つと、天草灘から有明海、八代海、さらに洋々たる東シナ海の眺めがあり、天草の姿を映し出しつつ、九州本土を振り返ることができる。とはいえ初めて訪れる人におもんばかって、島の道がどんな道か、そこに何があるかを知るために、その一走りとして、図５の５区間❶～❺に分けて概略を紹介すれば次のとおりである。本文と地図あるいはナビを突き合わせながら理解でき、島と侮れない思わぬものに遭遇できる。

⑬　愛称「ありあけタコ街道」の国道 324 号（天草上島）

⑭　国道 324 号トライブの休憩にも使える鬼池港ターミナル

❶　五橋が繋ぐ道・天草パールライン

宇土半島の先端で、国道５７号と２６６号が合流、三角から大矢野島に渡る位置に三角東港、西港があり、天門橋（天草１号橋）と天城橋が並行して架かっている。あまくさ風景街道へのスタート地点であり、そこから国道２６６号を通り、五橋全てを含めて、大矢野島から天草上島に至る区間を天草パールラインと呼んでいる。わが国有数の真珠養殖の地にちなむネーミングだが、天草五橋と天草松島の自然景観が見事に調和した道である。道の１００選にも取り上げられ、菊陽町の杉並木の大津街道と共に、熊本県を代表する道の一つである。

❷　天草四朗が戦いながらたどったタコ街道

天草上島に至れば、国道２６６号と別れ、国道３２４号を行くこととなる。この区間は、松島有料道路、松島有明道路（自動車専用道路）⑫がつながり、平行しているが、風景や歴史を重んずれば海辺の３２４号がお薦めであり、迅速性を重視すれば内陸の自専道をと使い分けができる。

両道路は、松島有明道路の上津浦ＩＣで合流し、そこに２つのタコ入道の像がある。写真⑬に見るように、親子なのか大小のタコの像が海辺に飾られ、また、道の駅「有

明リップルランド」や、温泉「さざ波の湯」、キリシタンの遺品を展示するサンタマリア館が集積している。これらを利用すれば、天草上島の丁度中間であることもあり、一休みするのに都合がよい。

ときには、奴さんのように吊りさがるユーモラスな本物の日干しダコにも出会う国道３２４号は、別名「天草ありあけタコ街道」との愛称がつき、その途中に、天草の乱の緒戦の地である大島子諏訪神社⑳がある。そして、さらに進むと天草瀬戸大橋であり、再び国道２６６号と合流している。瀬戸を航行する船の邪魔にならないようにと取り付けはループをなし、高さを稼いでいるが、それをくるくると回り終えると再び３２４号は２６６号と枝分かれし、本渡港に至る。突端でしばし車を止め、次々にやってくる車の往来をながめていると、橋の鼓動、瀬戸の波動が共鳴して躍動する海上を背景にする飾りにも思え大変面白い。

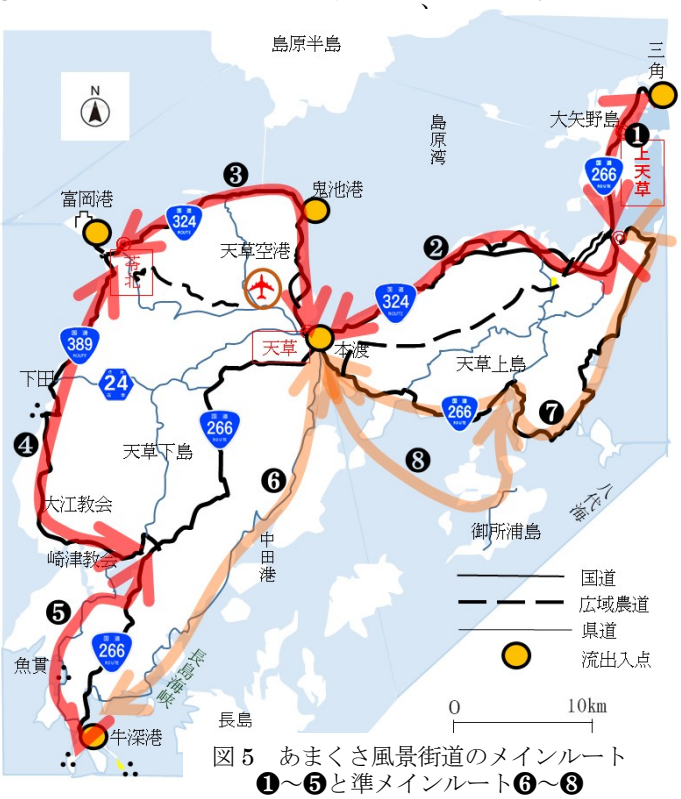


図５　あまくさ風景街道のメインルート❶～❺と準メインルート❻～❽

❸　島原湾口に住みついたイルカの道

本渡地区から車は北を向き、進むほど島原半島が近づくが、海向こうとはいえ、「島原大変・肥後迷惑」や近年の雲仙普賢岳の噴火（一章２節）を思いおこせば、巨大なモンスターが迫る印象を抱く。そして、その突端が鬼池港であり、島原半島への定期航路がある（図３）。早崎瀬戸と呼ばれる島原湾の入り口であり、フェリー・ターミナル⑭前の広々した駐車場は、天草四郎の像と共に、眼前の海峡を見つつ休憩施設として利用できる。

その先の国道３２４号沿いは、イルカウォッチングの船乗り場（天草市五和町二江）であり、遊覧船に乗れば、海で群れなすイルカを十分に楽しむことができる（五章３節）。

続いて通詞（つうじ）島。通詞とは、通訳者を意味する。中世のころ南蛮貿易の通詞が住んでいたことによる島名だが、今では通詞大橋（橋長１８４ｍ）で天草下島とつながり、これを渡れば、島の高台にある五和歴史民俗資料館の屋上から、早崎瀬戸や天草北部沿岸、島原半島が一望でき、エイを祀る珍しい神社にお参りすることができる。

なお、島では周回道路はよいとしても、内部は細街路が多く、漁村特有の集落であり、車の離合が難しいのが実態である。小型車しか通れない道路、急な坂道、屈曲する道が多いので進入するにしても注意が必要である。できれば海辺の広場や空き地に駐車し、漁師が暮らす島内をまち歩きすることがお勧めである。

通詞島から再び国道３２４号にもどると、苓北町に入ったところで、見事な形をした、巨大な〝おっぱい岩〟㉗に遭遇する。干潮時にしか見られないので時を測って訪れる必要があるが、本当に自然の岩か、彫刻したのではないかと疑いたくなるほど見事である。それを見つつなおも進んだところに富岡半島が突き出し、トンボロ特有の突端の島に富岡城跡㉘や見事な巴形の富岡湾④、富岡海域公園があり、本風景街道における重要な景観ポイントである。

本地区は、文人墨客の訪問が多いが、その一人、頼山陽㊴は、漢詩「泊天草洋」を詠んでいる。半島突端・富岡城への途次に公園内に句碑が建ち、その前にある録音ボタンを押すと、朗々たる詩吟を聞くことができ、毎年１０月には吟詠「天草洋に泊す」全国大会も開催されている。歌うもよし、聞くもよしだ。

雲か山か呉か越か　水天髣髴青一髪
万里船を泊す天草の洋　煙は篷窓に横たわって日ようやく没す
瞥見す大魚の波間に跳るを　太白船に当たって明月に似たり

富岡から国道３８９号を南下すると、天草下島の西海岸であり、ここから羊角湾までの区間は〝天草西海岸サンセットライン〟との愛称で呼ばれている。いわゆる天草灘の海の景色と夕陽が売りもののメインロードであり、その前半の下田温泉までは波打ち際に視界が広がるドライブコースである。

❹　夕日を眺め、南蛮文化を訪ねる天草西海岸北ルート

下田から以南は天草西海岸サンセットラインであり、ところにより平行した旧道となり、風景街道のメインロードと重なったりしながら、断崖や海に浮かぶ岩礁と夕陽が自慢の道である。つまり、国道３８９号そのものは内陸よりを通過。このため、部

分的に展望所（鬼海ヶ浦㉚、姫見浦③、十三仏公園㉙など）に寄り道しながら、区間によっては海辺よりの西海岸サンセットラインへの回り込みが求められ、狭い、屈曲した区間に注意が必要である。

本風景街道の重要景観ポイントは、大江教会㉑および﨑津教会㉒だが、そこへ行くには、サンセットラインでもある旧道へ大きくまわり込む必要がある。ややこしいが、こうした実態から、メインロードは国道３８９号であるものの、それを補う意味で平行して「サンセットライン」をたどる路線として、図４では特に赤点線を追加している。

❺ 海域公園地区を行く最南端の天草西海岸南ルート

羊角湾の奥で国道３８９号は、国道２６６号に合流する。そして、羊角湾が尽きるところから市道早浦路木線、県道３５号牛深天草線、牛深漁港臨港道路へと回り込むと牛深へと行き着き、牛深ハイヤ大橋㊷をわたると、市道小森線で下須島（げすしま）の先端に至る。これらは、すれ違いに注意が必要な個所もあるが、後述するように、海岸や海の景勝地を巡るとして、あえて地方道を行くものである。

なお、本渡の天草瀬戸大橋から牛深までの国道２６６号は、内陸の里や温泉が癒しのドライブとなることは事実だが、帰りを急ぐ場合のショートカットにも利用できる。

以上があまくさ風景街道のメイン道路の一走りである。ちなみに、図４に示す天草１号橋の地点Ａから下須島の先端Ｂまでは車で約４時間。そのうち本渡～牛深区間は３時間を要し、国道２６６号の天草瀬戸大橋～牛深区間は、走るだけならば約１時間である。

3 島の交通網を生かし回遊する「あまくさ風景街道」

★ 風景街道地域への流出入点とメインルート❶～❺

本来、風景街道ではメインルートがあり、その周辺の寄り道区域が風景街道の地域として設定されることが多い。この点に倣えば、前節に紹介したメインルート沿いの区域を天草風景街道地域と定義することになる。しかし、本風景街道では、域外からの限定された流出入点、島を取り囲む有明海・八代海・天草灘の多様性、島ゆえの限られた回遊空間や架橋状況を考慮すれば、メインルートは必然的に島々の周回を経て往路、復路をなすことがあり、天草全体をあまくさ風景街道地域とすることが都合よいことがある。

アクセスとメインルートの概要は、前項までに述べたとおりだが、このことを踏まえると、域外からの天草への主な流出入点は図５のオレンジ色の丸印を付す陸、海、空を合わせて６か所がある。三角（三角東港、三角西港および国道２６６号の天門橋または天城橋）、本渡、鬼池、富岡、牛深の各港、そして天草空港。したがって、天草の回遊で、これらとメインルートも含む道路網を念頭において景勝地めぐりを計画し、天草を巡ることが望ましい。

まずメインルートだが、流出入点と前節のルート概要にもとづけば、❶～❸の区間を一つなぎにしてとらえることができる。大矢野島を縦断して天草松島に至り、国道２６６号を行くと、三角・天草１号橋からの「天草パールライン」、天草松島・本渡間の国道３２４号の「ありあけタコ街道」、そして、本渡・富岡間は、最近の通詞島沖のイルカウォッチングの人気にあやかれば、「イルカの道」である。いずれも有明海に面し、比喩すれば、パール、タコ、イルカがそれぞれの海に棲み分けながら顔を出す海辺の道である。これらをゆっくりドライブすると、半日程度の道程になるであろう。

一方、後半の富岡から下須島の先端までの西海岸を行くルートは、❹、❺の２区間である。ともに海に沿った海蝕崖がおりなす風景の道であり、夕日が美しいサンセットラインの道である。その上で、前者は「五足の靴」が踏破した南蛮文化を訪ねる道であり、紀行文学の道である。後者は、天草の秘境を行く自然豊かな道、牛深海域公園へ通じる道である。距離にすれば約７０㎞であり、こちらも半日はかかるだろう。

★ 準メインルート❻～❽と島内の主要な周遊観光ルート

島々からなる天草をぐるりと周回することを踏まえると、メインルートに加え図中の❻～❽の追加が望まれ、これらを準メインルートと呼ぶことにする（図５）。

ルート❻は、牛深・本渡間の主要地方道２６号の区間。西海岸とは趣を異にし、静穏な八代海（不知火海）を眺めるコースである。途中の中田港から鹿児島県出水郡長島町の諸浦島（しょうらじま）に渡ることができ（図３参照）、阿久根、そして鶴の郷・出水へと抜けることができる。

❼は国道２６６号の区間で、天草上島の八代海よりを巡るルートである。また、御所浦島へは、国道２６６号の補完として、本渡―御所浦―棚底または大道など、海の回遊路❽が必要である。

天草上島、下島の中央部、つまりあんこの部分は、先にも述べるように、国道２６６号、広域農道、そして主要地方道が図のように縦横断している。前述までのメインルート、準メインルートにこれらを加えれば、訪れる人の好みに応じたさまざまな回

遊路が設定できる。島の内部に点在する景勝地への立ち寄りが容易であり、来島するごとに違った回遊の道の組み立てを楽しむことができ、限られた空間の島とはいえ、飽きることはない。

★島の路線バスおよび「天草ぐるっと周遊バス」

天草の有人島のうちで御所浦島の諸島および湯島を除くと、橋で繋がり、その公共交通はバスである。熊本市内の交通センターから天草市の産交車庫前（天草）間を走る超快速・快速の「あまくさ号」がいわば基幹の路線バス（合わせて１８便／日）である。天草に限れば、三角西港前、五橋入口、さんぱーる（道の駅）、松島、本渡バスセンターが拠点をなすバス停であり、大矢野島、天草上島、天草下島を結んでいる。

その上で、上天草市内は地域循環バス「ＳＵＮまりんバス」があり、大矢野島は〃さんぱーる〃を拠点に、あるいは〃さんぱーる〃、三角西港、ＪＲ三角駅間のシャトルバスを基軸にして、さらに天草上島は松島を拠点に島内各地へ路線が張り巡らされている。

天草市および苓北町については、本渡バスセンターが拠点である。北エリア、南部エリア、下田・河浦エリアの各地を巡る路線があり、また本渡市街地には「のってみゅうかー」と呼ぶ循環バスがある。

こうした路線バスは後述する風景街道の諸地域資源の殆どに繋がっているが、本数が少ない路線もあり時刻表を事前に十分チェックしておく必要なことはいうまでもない。

観光バスについては、天草市内を巡る「天草ぐるっと周遊バス」の３コースがあり、その内容は図６のとおりであり、詳細は図中の電話番号に問い合わせるとよい。

図６　天草ぐるっと周遊バスの３コース（A~C）と牛深海中公園クルーズなど

四　天草の乱をたどり、天草ジオパークを巡る

「あまくさ風景街道」には、一章に述べたビッグな歴史秘話とそれに伴う遺跡がある。また、島固有の自然があり、その中でのさまざまな暮らしがある。これらは、九州の北部から南部に至る多彩な風景街道に劣るものでない。むしろ、２つの風景街道「やまなみハイウェイ」、および「阿蘇・熊本路」と結ばれ、九州横断の道の一翼を担うことができる。同時に、九州の西海岸を巡る「玄界灘風景街道」、「長崎サンセットロード」と、「薩摩よりみち風景街道」との間に挟まれ、一緒になって全体が九州西海岸の風景街道黄金ルートをなす。

これらの諸風景街道とのつながりの中で、他に比する本風景街道のテーマは何か、特色は何かを探れば、特に次の２つが強調できる。一つは世界文化遺産の「潜伏キリシタン」を含めた「**天草島原の乱と南蛮文化**」である。いま一つは、九州の中にあって特異な地形・地質をなす「**天草ジオパーク**」である。

むろん、前述するように、天草の島々を周回する景勝の海岸線も重要な資源である。しかし、これは本地域における地層、地質の特性と海の侵食による地形が織りなしたものであるから、内容的にジオパークと重なる。そこで、この点は後述の地区別の風景街道の紹介において補うこととし、ここでは前２者の重要テーマについて紹介するものである。

１　百姓一揆の天草島原の乱と南蛮文化の道を行く

（１）日本を震撼させた天草島原の乱の跡を訪ねる。

戦国時代、多くの戦いがあった。織田が、豊臣が、はては徳川が覇権をかけて争った。当然ながら天草も無縁でなく、これらに巻き込まれた。しかし、そうした争いは本来、武将たちの戦いに過ぎなかった（一章２節）。そして、それが落ち着いたところに、天草では今度は百姓達が立ち上がり、全く質を異にする争いが勃発した。皆さんも知っての「天草島原の乱」であり、わが国を根幹から震撼させた争いである。

なお、天草島原の乱にはさまざまな呼び方がある。島原天草の乱（または一揆）、島原の乱、天草の乱。あるいは西海の乱とも。本文では、天草での出来事が主であるから、天草島原の乱と呼ぶことにする。

★　天草島原の乱の原因は何か

まずは何が不満で乱が発生したか、背景に何があったかだ。この点、キリシタン一揆、百姓一揆、および両要因による一揆の諸説がある。

確かに、幕府のキリスト教の禁止令や、わずか16歳の総大将・天草四郎時貞の出現とそのいでたち、用いた陣中旗⑯（国重要文化財）の特異なデザインなどから、キリシタンが集まり、信仰の自由を求めて一揆を起こしたようにも見える。このため、従来はキリシタン一揆だったとする考えが主をなし、いまなおそれを支持する向きもある。

しかし、一揆に加わった大多数は農民らである。つまり、一章で紹介したように、表石高の半分に過ぎなかった実質石高のため、苛酷な年貢の取立てに農民らは苦しみに苦しんだ。加えて、凶作が重なり、ついに不満が爆発、一揆が起きたとみられている。これが百姓一揆説であり、現在の学術的見解の主をなしている。

そして、以上の2つを重ねた説が3つ目だ。とはいっても、キリシタンとの関わりは、単なる信仰や宗教弾圧への反発でないとの指摘がある。

唐津藩の寺沢広高（飛地・天草を統治）、大村藩の大村純忠、肥前日野江（島原）藩の有馬晴信、宇土藩の小西行長など、天草とその近隣諸藩の大名がキリシタンであったことで、天草でも多くの人々の間でキリスト教が広まった。

ところが、小西行長は関ケ原の戦いに敗れて処刑された。また、諸大名も禁教令のもとに改宗し、領民も改宗を迫られた。その際、断絶した大名の家臣で、帰農した浪人たちの働きかけが百姓たちのキリシタン回帰を促したといわれている。農村などに残っていた信徒の共同組織を利用し、階級の垣根を超えて貧しい百姓達にキリシタンへの回帰を促し、これに百姓達が応じたということである。その意味で、当時の天草、島原の人々は、長崎の「隠れキリシタン」とは異なる性格の「潜伏キリシタン」であり、これを「立ち帰りキリシタン」と呼ぶ文献もある。

要するに、天草島原の乱は、信仰を心の支えに立ち上がった農民達が、島原藩、天草藩、そして九州の武士団に挑んだ戦いである。ある意味では市民革命といってよい。わが国にあっては前代未聞の規模で百姓達が立ち上がり、巨大な幕府に立ち向かった一揆である。

★　天草島原の乱の参加者と経緯

1612、13年の2度にわたり徳川幕府はキリスト教禁止令を発し、厳しく弾圧した。そうした中で、天草や島原の人たちは、島原湾に浮かぶ湯島（上天草市）に代表が集まり、繰り返し会合がもたれた。このことから湯島は別名〝談合島〟と呼ばれている。その談合で天草、島原連合が成立、天草四郎時貞を一揆の総大将に決めた。

天草四郎⑮、⑯は、小西行長の家臣・益田甚兵衛の長男である。大矢野島に生まれ、本名は益田四

天草キリシタン館前と天草四郎公園の像
⑮　天草の乱の総大将・天草四郎の像

⑰　千人塚(天草市本渡・城山公園)

⑯　「藍のあまくさ村」の天草四郎像前の説明看板（上天草市大矢野島）

郎、諱は時貞である。その彼こそが、南蛮寺（天草市有明町。現在の正覚寺⑱）から国外に追放された神父ママコスによる予言「25年後、16歳の天童が現れ、パライゾ（天国）が実現するだろう」の天童とされた。

一揆の参加者は、島原側から24842人、天草側から2884人とする資料がある（鶴田文史：西海の乱（下巻）、西海文化研究所。2006年）。それによれば、天草側については、大矢野島から897人、天草上島から1576人、天草下島から411人が参加したとのことである。

こうしたデータがどれほど正確かは分らない。しかし、参加者は、図7の概ね黄色楕円で囲まれた天草北部地域の人々が主であったことは確かである。中には、一家をあげて、集落や村をあげての参加もあった。

一揆は、1637年12月11日に島原で勃発。まさに歴史の瞬間であった。これに呼応し天草も蜂起。つまり、天草での一揆の動きは大矢野島からはじまり、これに天草四郎の一団が島原から駆け付けて天草上島の大島子諏訪神社付近⑳で集結、唐津・富岡藩士らとの最初の戦となった。一揆勢はこれに勝利し、本渡の町山口川・祇園橋㉟（石橋。国指定重要文化財だが、建設は乱の後である）付近での激戦を経て富岡城㉘に迫った。しかし、訪ねてみればよく分かるが、急峻な地形と海に囲まれ、守りが固いことから攻めきれなかった。また、背後から熊本藩の討伐軍が迫ったとの情報もあり、坂瀬川（苓北町）の河口⑲から島原の旧城・原城へと移動、島原勢と合流して立て籠もった。なお、参考までに上述のルートを図に示せば図7の青矢印のとおりである。

島原での籠城は、老人や子供をも含め約3万人とも、非戦闘員をも含め3万7千人ともいわれている。対する幕府軍は九州各藩からの軍勢12万人余である。これでは赤子をひねるようなもので、勝負は明らかだ。それにしても3か月という長期間にわたりよくぞ持ちこたえ、そして1638年2月末、天草四郎は打ち取られ、内通者を除いて老若男女すべてが皆殺しにされたといわれている。しかし、脱出者、捕縛者も相当数いたとの説もある。これをどうみるかは定かでないが、悲惨極りないといえ、16歳の天草四郎の統率のもとによくぞそこまで団結し戦ったといえる。

⑳　天草島原の乱緒戦の地・島子諏訪神社(上天草市有明町大島子,国道 266 号沿い)

表３　教会および天草の乱、キリシタン、南蛮文化関係の展示館

施設名	住所	問合せ先	内容	駐車	
大江教会	天草市天草町大江1782	天草宝島観光協会0969-22-2243	教会	ｻﾝｾｯﾄﾗｲﾝ	可
﨑津教会	天草市河浦町﨑津539	天草宝島観光協会0969-22-2244	教会	ｻﾝｾｯﾄﾗｲﾝ	可
天草四郎メモリアルホール	上天草市大矢野町中977-1	0964-56-5311	南蛮文化、キリスト教伝来の資料等	国道266号	可
サンタマリア館	天草市有明町上津美ノ越1940-1	0969-45-8110	キリシタン哀史関係資料の展示	国道324号	可
天草キリシタン館	天草市船之尾町19-52	0969-22-3845	天草の乱、潜伏キリシタン遺物などの展示		可
天草ロザリオ館	天草市天草町大江1749	0969-42-5259	隠れキリシタンの資料を展示	ｻﾝｾｯﾄﾗｲﾝ	可
天草コレジヨ館	天草市河浦町白木河175-13	0969-76-0388	天正少年使節、印刷機、南蛮文化	国道266号	可

⑲　天草四郎乗船の地（苓北町坂瀬川、国道 324 号）

⑱　南蛮寺跡に建てられた正覚寺

★　天草島原の乱の跡をたどる

天草島原の乱は、わが国最大の百姓一揆であり、農民らが武士に戦いを挑んだ内乱である。その跡をたどる天草の風景街道は、南蛮寺跡（正覚寺）、島子の緒戦の地（大島子諏訪神社）や本渡の祇園橋付近の激戦地、富岡城の攻防、そして原城への乗船地を巡ることとなる（図７の緑矢印）。同時に、そうした資料を集め公開する天草四郎ミュージアム、天草キリシタン館などを訪ねることだ（表３）。また、激戦で多くの血が流れ、その慰霊を供養する殉教千人塚⑰、キリシタン供養碑にお参りすることでもある。

今日では天草の各地に天草四郎の像が立つ。藍のあまくさ村（大矢野島）、天草四郎公園（大矢野島）⑮、天草パールセンター（天草松島）、天草城山公園（天草市本渡）⑮、鬼池港など。それぞれでいでたちは異なるが、１６才（今でいえば高校１年生）の天草四郎が総大将である。祈る、民衆を率いる、パライゾ（天国、楽園のこと）をめざす。そんな姿の若い天草四郎の像を見ながら、なぜ一少年が戦いの総大将になったのかと考えさせられる。

突飛だが、１５世紀の英仏戦争で先頭に立って戦い、最後は火あぶりに処せられた農家の娘ジャンヌ・ダルク（オルレアンの乙女。１９歳で処刑された）も１６、７歳であり、それと重なる思いがする。天草とかかわりのある天正遣欧少年使節は当時１３、１４歳の少年であり、長崎西坂の丘で処刑された２６聖人の中に、最年少１２歳を含め１０代の少年が５人もいた。これらは偶然だろうか。多感な少年たちの一途な信念・信仰が若者を駆り立てたともいえる。そうした過去の悲劇を弔う意味で、後世に生きる我々はせめて訪れ、祈りを捧げることは大きな意味があるだろう。

寄り道　天草史郎の容姿と墓について　本文の写真⑮、⑯に示されるように、天草史郎の容姿は様々で、どれが本当かは分からない。ただ、久留米の商人・与四右衛門が本渡町に滞在中、一揆勢が唐津藩・富岡城番代の三宅藤兵衛らに勝利して、船で本渡町茂木根に上陸し、馬に乗る時の出で立ちについて、「白い絹の着物を着て、はかまを着て、頭には苧（からむし）を三つ組にしてあて、緒をつけのど下にてとめ、額には小さな十字架を立てていた。手には御幣を持って、一揆軍を指揮していた」と証言したとされ、幕府文書に伝えられている。各地の銅像はこうした資料をもとに彫刻家などが想像してのものであろうが、顔つきが異なる、服装が異なるなどしている。

一方、一揆勢は、最後に島原半島の原城に立て籠もったが、食料も弾薬も尽き、幕府軍の総攻撃にあい全滅。この時、天草四郎は肥後細川藩士に本丸で討ち取られたが、どれが本物かは判然としない。四郎と思われる首が原城三の丸の大手門前、長崎出島の正面入り口前に晒され、同じ年頃の少年たちの中で、細川藩士が差し出した首を見て母親が顔色を変え、泣き伏したことから、幕府軍はそれが天草四郎と断定している。つまり、四郎の亡骸もさだかでなく、どこに埋葬されたかは不明で、天草上島の天草史郎公園と、島原半島の原城跡の２つの墓が伝えられている。前者は、天草四郎公園（天草四郎の生家跡）中央の天草四郎像の背後にあり、「天草四郎之墓」の刻みがある。後者は、原城本丸跡に天草四郎像があり、その横のやや離れた位置の小さな墓碑で、南島原市有家町の民家石垣から見つかり移設されたものである。苔で見にくいが、墓碑の最後に母の文字がある。

★　天草下島南部の「天草崩れ」

（２）潜伏キリシタンの里、大江と世界遺産の﨑津集落を訪ねる

図７　天草の乱の跡をたどる

天草へのキリスト教の伝来は、平戸への伝来から十数年遅れである。１５６６年、志岐城主の志岐鱗泉が、養子縁組の縁もあって修道師アルメイダなどを有馬藩から招き、布教を認めるとともに、自らも洗礼を受けた。これが天草のキリスト教の始まりだが、続いて天草氏、大矢野氏も受け入れた。これらは南蛮貿易を促進するためといわれている。また、戦乱が続く中で、領主自からがキリシタンとなったことで、領民の

間で瞬く間に広まったことは容易に察しがつく。

しかし、その後の伴天連追放令や禁教令などで天草のキリシタンは厳しく改宗させられた。その上での天草島原の乱である。このことから、全てのキリシタンは壊滅したと思われていたが、乱から１６７年後の１８０５年にキリシタン発覚事件が起きた。いわゆる「天草崩れ」だ。いないと思われていた長崎と同じ隠れキリシタンの存在であり、下島南部の大江や崎津、今富、高浜一帯の村人達５０００人が取り調べを受けた。そして、明治になりようやくに隠れキリシタンも信仰の自由を取り戻し、南蛮文化の花を咲かせ、仏教、キリスト教、神教が共存し、現在の天草の人々の心の支えとなっている。

㉑　大江教会とガルニエ神父像

★　復活の道―大江教会と崎津教会

大江に、長崎の浦上天主堂から西政吉牧師が訪れ、復活の道が開かれた。その後、１８９２年にフランス人のガルニエ神父が来日。私財を投じて大江教会㉑を建設した。設計は、長崎県下で多くの教会建築を手がけた鉄川与助その人である。

華麗な白亜のロマネスク様式である。先に述べた「五足の靴」の青年文学者たちが訪ねたのがガルニエ神父だが、来日後亡くなるまでの５０年間を本教会にとどまり、布教に努め、天草のみならず、わが国のキリスト信仰と南蛮文化の伝道に多大の影響を与えた。

一方、崎津も大江と同様に小さな村だったが、１５６９年に最初の教会が建てられた。そして、明治以降の復活後の建物となり、現在のもの㉒は１９３４年に建てられたものである。

大江教会とは全く趣を異にし、尖塔に十字架を掲げるゴシック様式である。しかし、これまた、鉄川与助の設計であり、同じ人のデザインとは思えない重厚さがある。祭壇の位置は、禁教時代の吉田庄屋役宅の踏み絵が行われた場所とのことである。教会内は畳敷きで、和洋折衷の大変珍しいつくりである。しかし、超高齢社会の現代では、その上に折り畳み椅子が並べられている。

また、教会近くに崎津諏訪神社がある。そこは天草崩れの取り調べが行われたとこ

図８　崎津・今富の国指定重要文化的景観

㉒　崎津教会（世界遺産）

㉓　独特の文化的景観を持つ崎津の漁村

ろであるが、その一方で、集落の人々が氏子となり密かにキリスト教の信仰を守ってきたよりどころでもある。その意味で地域における重要な歴史舞台となった所といってよい。

なお、大江教会にしても、﨑津教会にしても、国道３８９号をバイパスにして（大江、﨑津バイパス）、それから海岸側に入り込んだ天草西海岸サンセットライン沿いにある（図７）。

また、﨑津集落等は、世界遺産に登録される以前から「天草市﨑津、今富の文化的景観」として国の重要文化的景観に選定されていた（図８）。つまり、羊角湾に面する漁村集落「﨑津」は、天然の良港だが、平坦地が狭隘なことから軒を連ねるように小路（これをトウヤという）を挟んで密集家屋が建ち並び、その先に海に張り出すように建造物（カケという）㉓が作られ、漁具の手入れや干物づくり、船舶の碇泊、物干しなどに利用されるという独特の形態をなす。加えて、その湾奥に２つの河川支流で干拓が行われ、あるいは扇状地にわずかながらの農地がある。そして山村集落「今富」が続くとともに、潜伏キリシタンの信仰から、石碑や墓地が見えないように集落の形態が工夫された。

㉔　天草コレジヨ館のグーテンベルグ印刷機（複製）

要するに、特異な構図の漁村集落・﨑津と農山村集落・今富が細長い小規模な谷筋の地形に沿ってつながり、一つの湾と湾奥からなる集落を成し、他に例を見ない地形および集落景観上の特徴をもつ。それが「天草市﨑津、今富の文化的景観」である。

この景観は、世界文化遺産「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の重要な構成資産でもある。表向きは寺院、神社に帰属しつつ、デウスを豊漁の神と信じ、アワビなどの貝殻の内側の模様を聖母マリアに見立てるなどして、漁村ならではの工夫でキリスト教を信仰した。そうした潜伏キリシタンの漁村〝﨑津教会と﨑津諏訪神社周辺地区〟を歩き、トウヤとカケの実態、珍しい農山漁村一体の構図を見て回ることができる。

図９　あまくさ全域に広がるジオサイト

天草の南蛮文化に関し、いま一つ注目することがある。それは、天草コレジヨ（学林）が１５９１～１５９７年の間存在したことである。神学校であり、日本人キリスト教宣教師育成のための施設であった。天正少年遣欧使節４人もそこで学んだとのことだが、その場所は現在の天草市河浦支所横の天草コレジヨ跡公園と目されている。河浦支所に隣接した静かな地で、川沿いの散策に適したところである。天正の少年使節たちもそこで学び、走り回りながら、初めての海外渡航とその使命に思いをはせ、さまざまに夢をみたと推察されるが、帰国してまさかの追放や刑に処せられるとは思いもよらないことであったろう。

２　海に浮かぶまるごと「天草ジオパーク」

前述した人の歴史はせいぜい数千年だが、天草の地質となれば、一億万年あるいはそれ以上前の変成岩から、現代の沖積層まで、時間尺度が異なるさまざまな地層が話題となる。このことから地質年表で天草の大まかな地質

状況を示せば表４のとおりであり、各層が島々のあちこちに露出している。まさにジオパークの島であり、２０１４年に日本ジオパークに認められた。

天草上島の八代海よりから御所浦島、天草下島の南西部に至る区域に、８、９千万年前の古い地層（御所浦層群、姫浦層群）の露頭が見受けられる。その一方で、大矢野島から天草上島の北部に比較的新しい地層がある。そして、それらに挟まるように数千万年前の古第三紀、後期白亜紀の地層が広く分布している。

また、図５に示すルート❻～❽に沿った天草下島南部から中央部、御所浦から天草上島南西部にかけての一帯は入り組んだリアス式海岸である。このため、地質、化石、はては地形に関係して多彩な景観ポイントが形成されている。

これらをもとにしたジオパークの島めぐりがまたあまくさ風景街道の醍醐味である。大まかには大矢野島、天草上島、天草下島および御所浦の島々の区域に分けられ、それぞれの主要なジオサイトは図９のおりである。地質・地形とそれらにもとづく風景、化石、自然の生態系、地下資源がもたらす石の文化や石材産業などからなる。この状況を理解し島めぐりすることは、天草の景観の由来や、その姿の特徴を知る手がかりとなり、ジオパーク運動が目指す保全と教育に適う風景街道の実現にもなる。

なお、説明にあたり、やむをえず専門用語を用いることもあるが、できる限りわかりやすくしたつもりであり、我慢して読んでいただきたい。

（1）なだらかな地形、砥石の産地の大矢野島

三角から天草１号橋を渡ったすぐのところに標高２２９ｍの飛岳（ひだけ）がある。これが大矢野島の最高峰である。このことで明らかなように、島全体は比較的なだらかだが、これは新しい地層や、火山灰、火山礫などの砕屑物が広く堆積したことによる。その中で、ジオサイトとしては天草砥石の採石場があげられる。火山岩の一種である流紋岩の貫入による白い石やきれいな木目状の石である。砥石に加え、建材としても多く用いられている。

㉕　ハクセンシオマネキ

天草砥石

天草陶石

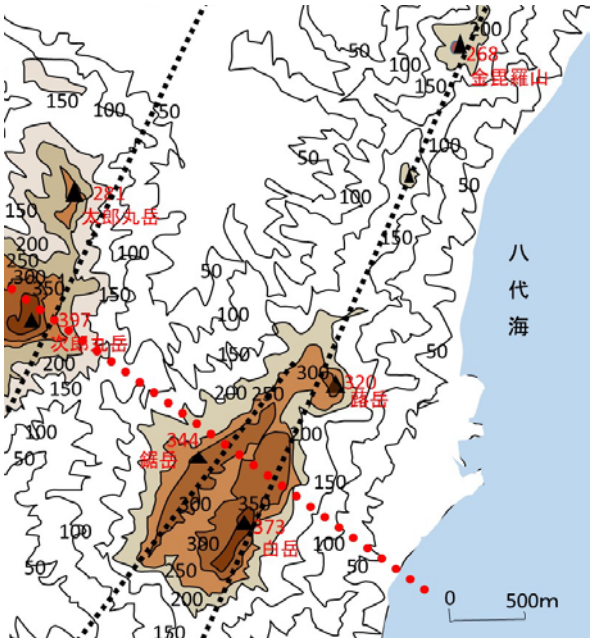
表４　天草の地質年表

	地質時代		地　質	備　考
0	第四紀	完新世	沖積平野 阿蘇の火砕流 洪積世台地	黒崎海岸
			溶岩ドーム	天草砥石
2			大矢野層・伊佐津層	湯の島の玄武岩
	新第三紀	鮮新世 中新世	貫入岩類	流紋岩類の岩脈
22				天草火成岩
	古第三紀	漸新世	坂瀬川層群：坂瀬川層	下島北部の黒色頁岩
			坂瀬川層群：一町田層	下島河浦
47			本渡層群：砥石層（峡炭層）	祇園橋の石材 下島西側の炭田
			本渡層群：教良木層	上島に広く分布
50			弥勒層群：白岳砂岩層（海域で堆積。貨幣石）	白岳砂岩
			弥勒層群：赤崎層（陸域で堆積。泥岩。絶滅大型哺乳類）	
65		暁新世	姫浦層群：上部亜層群（貝化石、イノセラムス）	高戸の白亜紀化石
85	白亜紀	後期白亜紀	姫浦層群：下部亜層群（貝化石、アンモナイト、イノセラムス）	妙見ヶ浦、軍ヶ浦海岸
98		前期白亜紀	御所浦層群（汽水生貝化石、三角貝、恐竜）	御所浦島の恐竜化石
144 ×百万年	ジュラ紀		肥後変成岩 高浜変性岩	桶島、高浜、大江の露頭

（2）多島海の天草松島とケスタ地形からなる天草上島

大矢野島と天草上島の間の島々を「天草松島」と呼ぶ。島の数は約２０だが、イルカが海上を飛び跳ねするかのように島々が浮かび、天草２号橋から５号橋などの橋々①がそれらを繋いでいる。三角港から本渡に向かうシークルーズは、この島々と橋々を見ながらの楽しい航海である。

さて、天草５号橋を渡り国道２６６号を進めば八代海よりの高舞登山（たかぶとやま）の展望台、国道３２４号を進めば有明海よりの千巌山（せんがんざん）公園の展望所駐車場まで車で登ることができる（図１０参照）。特に、千巌山（標高１６２ｍ）



天草上島のケスタ地形イメージ図

寄り道　ケスタ地形　ケスタとはスペイン語で傾斜、斜面を意味する。固い地層と軟らかい地層が傾いて互層をなす場合、固い層は浸食をさほど受けず、軟らかい層は浸食で急崖をなし、波状に連続する地形となるが、これをケスタ地形と呼ぶ。世界的にはナイアガラの滝がケスタ地形の急崖に生じたとして有名である。また、幾重にも地層が重なり、中央部にセーヌ川が流れるパリ盆地もケスタ地形であり、九州では、宮崎市と日南市の間の鰐塚山地で、旧飫肥街道（県道２７号）に沿った双石山（ぼろいしやま。宮崎自然休養林）がまたケスタ地形である。

ばフランスのモンサンミシェルのミニチュアのような構図だが、島に渡るには潮の満ち引きにくれぐれも注意する必要がある。

もう一つ、天草上島に地質と地形が絡む話題のジオサイトがある。それは、国道３２４号を進むと、松島中学校を過ぎたところで県道３４号と２つに分かれているが、その地形である。そこから県道に入ると、太郎丸岳、次郎丸岳の兄弟名を持つ山を右手に、鋸岳を左手に見ながら、それらの間の谷筋を進むが、そのＵ字をなす地形をケスタ地形と呼んでいる。図に示す通りのイメージだが、大矢野島南端の県道１０７号や天草上島の松島町今泉付近から眺めるとよく分かる。

つまり、天草上島が東西から押されて鋸岳から金毘羅岳方向および県道３４号の谷筋を軸に、折紙を折るような形で隆起。その後に中央凸部の割れ目の多い地層が浸食を受けて削られ、谷地形が形成された。その結果、次郎丸岳（標高３９７ｍ）と鋸岳（３４７ｍ）、白岳（３７３ｍ）が頂部に残り、次郎丸岳は有明海側が緩やかで、県道３４号側は浸食で切り立つ急崖をなしている。

（３）陶石鉱床と岩礁が織りなす天草下島

★　良質の石炭が採掘された天草下島

天草の産業に貢献した地下資源は石炭と陶石である。そのうち石炭は、天草下島で明治以前から採掘されてきた。地図を片手に探ると、志岐、大岳・坂瀬川、和久登・涼松、旭・今富、魚貫・権現山・南天、下須島などの地区に採掘現場があったが、小規模ながら、下島の北から南までの各地で、灰分が少ない良質な石炭が掘られた。

しかし、九州北部がそうであったように、天草でも１９７５年までにすべてが閉山した。現在は一部にその跡らしいものがあるに過ぎず、重要な遺跡は残っていない。強いてあげれば、苓北町の志岐炭鉱跡に石碑の台座がポツンと残されている。あるいは、牛深・魚貫（おにき）に天草炭鉱魚貫坑のコンクリート製ホッパーが放置され、下須島の小森海岸の海中に烏帽子坑の坑口㉖が顔を出し、昔日の面影を見ることができる程度である。

★　日本の陶石の八割を産出する天草

一方、陶石鉱床は、苓北町の都呂々地区から天草市の下田北、下田南、高浜の西海岸沿いの地域、やや内陸に入った皿山、金山、一町田、牛深に至る地域に細長く脈状は、天草四郎が出陣の宴をはり、杓子で酒を酌み交わしたとの言い伝えから手酌子山とも呼ばれ、天草松島を訪ねた人は、必ずといってよいほど立ち寄る展望公園である。

展望所から天草五橋および天草松島一帯①、②が一望できる。素晴らしい眺めで、海に浮かぶ島々をじっと見入っていると、ぽかりぽかり浮かぶ姿から、島はこうして生まれたのかと、国産み神話「大八島国」の話が思いだされる。また、島原、談合島（湯島）、大矢野島が眺望され、天草の乱に加わった人々の移動ルートを目で追いながら思いにふけることができる。

前後するが、天草２号橋を渡れば、天草ビジターセンターに遭遇する。そこは、わが国最大級のハクセンシオマネキ㉕の生息地として有名な永浦島であり、有明海側に桶合島（ひあいじま）が橋でつながっている。ハクセンシオマネキはカニの一種で、片方のはさみが大きく発達し、それを潮騒で白い扇子のように振る姿になまえの由来がある。

桶合島の突端におにぎりの形をした高杢（たかもく）島②がある。約３００万年前の小火山で噴出したマグマが固まったもの（安山岩）である。その整った形から、天草富士とも呼ばれ、通常は海に囲まれた島だが、干潮時に砂州が浮かび上がり、歩いて１０分ほどで渡ることができる。島の中腹に小さいながらも金毘羅宮があり、いわ

をなして存在し、全国で利用される陶磁器原料の８割を天草陶石が占めるほどである。あるいは、このこともあって、下島の北部（天草郡苓北町）および西海岸（天草市天草町）に陶磁器の窯元が集まってきている。ところどころに見られる採掘現場やその跡（内田皿山焼、高浜焼窯跡など）、あるいは鉱脈が貫入した古い地層は、いうまでもなくジオサイトである。

★「おっぱい岩」とトンボロの富岡半島

炭鉱、陶石以外にも珍しい岩石や岩盤などのジオサイトがあり、島の北部や西海岸沿いに見受けられる。すなわち、国道３２４号に沿って通詞島がある。その一帯は坂瀬川層の頁岩で、黒色をした岩石からなる海岸線が続く。そうした中で、苓北町に入ると干潮時にみられる〝おっぱい岩〟㉗が突然現れる。むろん、車を運転していては見過ごしがちだが、看板があるので注意すれば気づくことができる。

写真にみるように、文字通り乳房形の石灰質の岩塊（直径約１．５ｍ）である。雲仙普賢岳の噴火で飛んできたとの説もあるが、実際は周りの頁岩が海水などの作用で取り除かれ、硬い岩が取り残されたものと推察されている。長い年月を経て自然にできた形と想像されるが、よくぞここまできれいに整えられたものと自然の神秘に魅せられる。

続いて、富岡半島。これは陸繋島である。その砂州を先に進んで島に至り富岡城跡に登ると、急峻な地形の上に城の一部を復元した富岡ビジターセンター㉘がある。天草・島原の乱に際し、天草四郎率いる百姓たちが攻めあぐねた状況がその地形から一目瞭然である。また、鳥のくちばしのような形をした砂嘴（さし）④や砂州は富岡港の天然の堤防をなす景観である。これは砂州で富岡半島ができ、沿岸流が半島を回り込むようになったことで砂嘴が自然にできたものである。

★　わが国初の海域公園など

㉖　海中から顔を出す小森海岸の鳥帽子坑の坑口

㉗　おっぱい岩(苓北町坂瀬川、国道 389 号沿い)

㉘　富岡城址に建つ富岡ビジターセンター(苓北町))

㉙　十三仏公園の夕日（碑は与謝野鉄幹、晶子の歌）

㉚　天草西海岸を行く（鬼海ヶ浦）

富岡半島の西側海岸に回れば、我が国最初の海域公園（１９７０年指定）がある（図１２）。半島全体がジオサイト富岡海域公園だが、その一大拠点をなす。西の突端の四季咲岬ではハマジンチョウ、ハマオモトなどの花が四季折々に咲き、苓北町を初めて訪れた多くの人が吸い寄せられるように寄り道をしている。

富岡港からは、国道３２４号との重複区間（鬼池港・富岡港間）が終わり、国道３８９号単独となって下田温泉に至る。このルートは、明治の文学青年達の「五足の靴」がたどったコースである。夕日がきれいな「天草西海岸サンセットライン」の主要区間でもあり、下田から崎津まで、波の浸食でさまざまな姿をなす岩礁と海辺、夕陽が織りなす光景は、他所で味わえないジオサイトである。下田、鬼海ヶ浦㉚、妙見ヶ浦⑦、十三仏公園㉙などと随所に展望所が設けられ、それらからの断崖絶壁、岩礁の眺めは、足がすくむこともしばしばだが、自然の力と逞しさを思い知ることができる。なお、十三仏は近くに十三仏堂があることに由来する。

天草の十三仏のやまに見る　海の入日と　むらさきの波

（与謝野鉄幹）

羊角湾の入口にある軍ヶ浦は、地層でいえば姫浦層群であるが、その上部の汽水域境界と思える海岸から約７０００万年前の草食恐竜の足跡や歯の化石が発見されている。

また、崎津の目の前に広がる羊角湾は、山地がそのまま海に潜り込むリアス式海岸である。いくつかの肢湾に分かれ羊の角のような形をなしているが、幅も狭く、奥深いことから、北欧のフィヨルドに似た景観であるといってよい（写真㉛）。

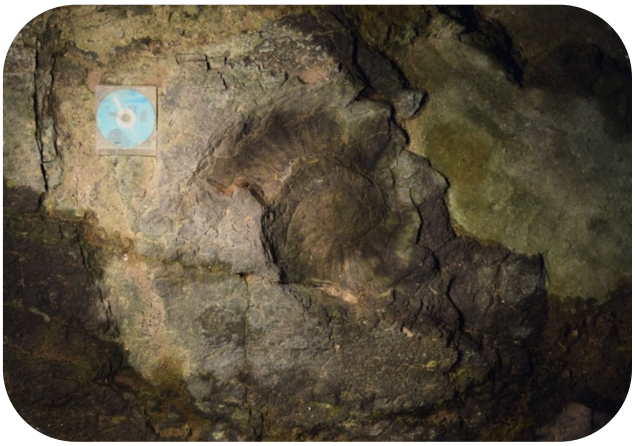
国道３８９号をさらに進めば、河浦町白木河内の交差点で国道２６６号に合流。そこから南下して路木を過ぎるとサンセットラインは県道３５号線に入る。魚貫、渕浦、そして牛深公園を経て牛深港に至る（図１３）。

そこできれいな弧を描く牛深ハイヤ大橋㊷を渡れば天草南端の下須島である。道幅が狭く、曲がりくねったところもあり、注意深い運転が必要だが、複雑に入り込んだ島の形とマリンブルーの海に浮かぶ小さな島や岩礁、あるいは海中炭鉱の跡㉖（牛深小森地区）などのジオサイトに遭遇する。海に潜れば色とりどりのサンゴ礁の群生、鮮やかな色をした熱帯魚が鑑賞できる。

下須島の南端の地形は２本の角（つの）をなすように二股に分かれるが、小森からその付け根ともいえる砂月海岸まで戻り、もう一方の角の南端に向かえば鶴葉山公園がある。ただ、そこに行くには、一部で幅が狭く、車１台がやっと通れる道をたどらざるを得ないこともあり、注意が必要である。

㉛　フィヨルドに似た羊角湾の風景

御所浦港で恐竜（模型）が出迎え



㉜　アンモナイト館のアンモナイト化石（牧島）

（４）一億年前の恐竜化石が見られるジオパークの島・御所浦

天草市に合併する以前の旧御所浦町は、全体が１８の島々からなるまちであった。そのうち有人島は御所浦島、牧島、横浦島の３島である。なお、御所浦とは天草にあってどうしてと思える島名だが、１７００年程前、景行天皇が九州西側巡幸の際に用いた港に由来し御所浦と呼ばれたことによるともいわれている。

御所浦の島々では、八代海側は約１億年以上前の御所浦層群、西よりの牧島や横

浦島は姫浦層群や弥勒層群、本渡層群といった中世代・後期白亜三紀の地層が分布している（図１３）。したがって、御所浦島からは恐竜の化石やアンモナイトの化石が、牧島からはアンモナイト（現生オウムガイに似た螺旋型の貝で、エジプト神話の太陽神に因む名である）や１０種類以上に及ぶ大型ほ乳類の化石が見つかっている。また、横浦島では、海底から姫浦層群が隆起し、恐竜時代の地層と哺乳類時代のそれが上下に重なり、その中間の時代が断絶した不整合な露頭を見ることができる。

牧島のニガキ化石公園に展示された密集した貝の化石や恐竜のオブジェなどを眺めていると、８、９千万年以上前とはいえ、こうした島々で恐竜が跋扈し、大型の貝が生息したことがイメージされ、不思議の国ガラパゴス諸島（エクアドル）を訪ねるに似た思いである。

一方、御所浦港のすぐのところに天草市立御所浦白亜紀資料館（０９６９-６７-２３５９）がある。発掘された白亜紀の恐竜の歯や古第三紀の化石など約１０００点が展示されているので立ち寄るとよい。

御所浦島に隣接する牧島は今では橋でつながり、合わせてもそう道のりでなく、貸自転車での回遊が可能である。しかし、海に面する絶壁などに恐竜の化石があり、アクセスできない個所もある。したがって、グループとしてまとまれば、海上タクシーによる島の周遊も考えられ、ビッグな海上の寄り道になるであろう。

重要な風景要素にもとづくテーマ以外にも、天草にはさまざまな地域資源がある。各地に恵みのジオサイトともいえる温泉地や温泉センターがあり、先に紹介した通詞島、富岡半島、崎津・今富などを含めて、都市とは全く異なる島の集落や生活、暮らしをじっくり見て回り、他で味わいえない故郷体験の風景街道をたどることができる。加えて島々の海辺には、海水浴場、釣り場があり、マリンスポーツのメッカがある。あるいは、内陸は、最高峰の倉岳（天草上島）でも標高６８２ｍ。したがって、いずれの山もウォーキング、オルレに適し、巨岩なす山頂や、３６０度のパノラマが展望できる。なかには山頂あるいはその近くまで車で登れる山もある。

要するに、これらの諸内容を含め、さほど大きくない島々をあちらこちらと寄り道しながら風景や歴史、ジオパーク、風習などを見て回ることができ、それこそが「あまくさ風景街道」の真骨頂である。以下、五～八章はそうした内容を４ブロックに分けて紹介するものである。

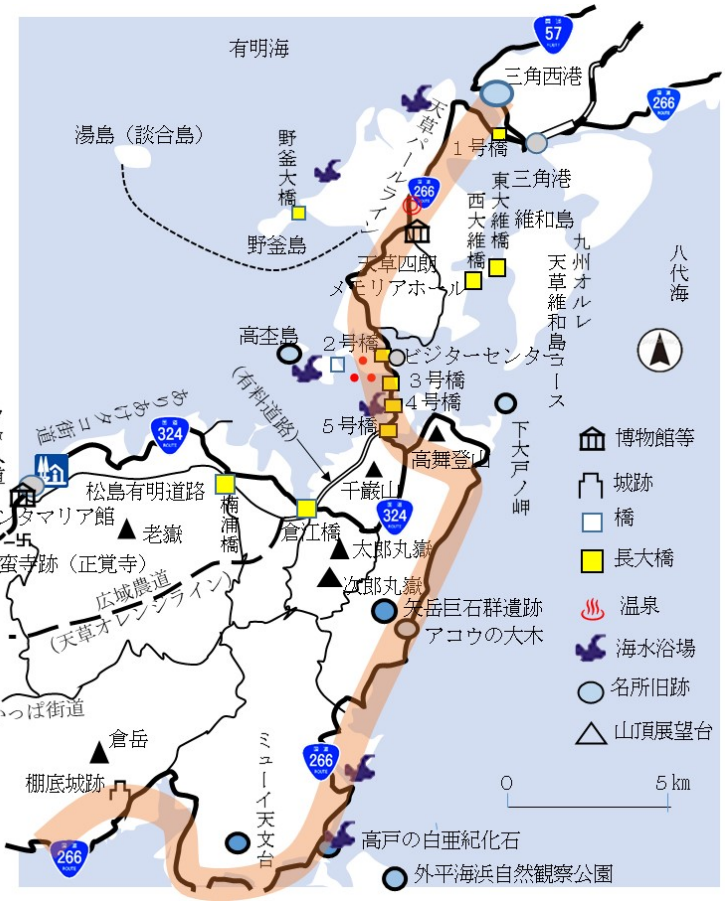


図 10　上天草市を行く

五　八代海に面した大矢野島・天草上島を行く

――「あまくさ風景街道」の４ブロックを行く――

１　世界遺産「三角西（旧）港」から天草五橋を渡る

二章に述べたように、大矢野島に渡る直前の国道２６６号沿いの三角東港（ＪＲ三角駅に隣接）から少し熊本市に戻るように国道５７号を進んだところに三角西（旧）港⑨がある。これは、野蒜（のびる）港（宮城県）、三国港（福井県）とともに明治三大築港の一つである。明治２０年（１８８７年）、オランダ人水利工師ローウェンホルスト・ムルドルの設計で、国際貿易港、あるいは水深が浅い島原口之津

港に代わる三池炭鉱の石炭の積み出し港として整備された。

小山秀（英之進）率いる天草の下浦石工達が建設した石積埠頭（７５６ｍ）、東西の排水路、石橋（壱之橋、弐之橋、参之橋、中之橋）⑨は、いずれも国指定重要文化財である。あるいは、旧三角海運倉庫、龍驤（りゅうじょう）館（明治天皇即位５０周辺記念に建てられた洋館で、旧郡立図書館としても利用）、九州海技学院（旧宇土郡役所）、法の館（旧三角簡易裁判所）などが残されているが、いずれも国の有形文化財である。

確かに港の機能は三角東港に移った。しかし、三国港（現在の福井港）は一部にもとの姿を残しながらも地方港湾としての近代化が進み、また野蒜港が姿を消したいま、三角西（旧）港はもとの姿をそのまま残すただ一つの貴重な明治の港遺産である。宇土半島を経由して天草へアクセスする際には、その表玄関ともいえる本世界文化遺産に是非とも立ち寄ることをお奨めする。

世界文化遺産「明治の産業近代化遺産」における三角西港

世界文化遺産・三角西港と現在の三角港の中間に天門橋（天草一号橋）および天城橋が架かっている。そして、それを渡れば大矢野島だが、その中間点からやや松島寄りに進んだところの天草四郎公園に天草四郎ミュージアムがある。キリシタンの遺品、天草島原の乱関係を映像化した作品や資料がある。また、隣接した高台に天草四郎の像⑮と墓石が建っている（１５ページの寄り道参照）。

さらに進んで、天草五橋の二号橋を渡ると、上天草市松島町に入る。二号橋から五号橋①までは連続し、それぞれの橋のたもとには車を停めて撮影できる景観スポットがあり、海に浮かぶ島々の景観のスペクタクルな変化を楽しむことができる。いまから５０年前、橋建設の夜明けの中で、新技術を諸外国に学びながら工事に携わったわが国の土木技術者たちの新たな挑戦を思い浮かべ、パチリ、パチリと撮影し、インスタグラムにあげるのもどうだろうか。

天草上島・松島の合津港（パールライン観光、０９６９-５６-０６７８）や前島（シークルーズ、０９６９-５６-２４５８）からは、天草五橋巡りの遊覧船が１日数回出航しているが、それを楽しむことも一案である。所要時間は約３０～４０分だが、島々と、それらを結ぶ橋を海上から見ることができ、天気が良ければ誠に素晴らしい眺めである。また、港周辺にはパールセンター、海水浴場、展望所など様々な施設があり、地域全体がまさに風景ゾーンであり、十分に楽しむとよい。

２　天草上島の国道２６６号を行く

先に紹介したように、国道２６６号は、国道３２４号と松島で分岐し、一方はメインルートの国道３２４号（天草タコ街道、二章２節）であるが、その重要資源は天草島原の乱であり、すでに三章に紹介した。そこで、ここではもう一方の国道２６６号を周回するとして、松島から棚底へと順を追いながら説明を加えよう。

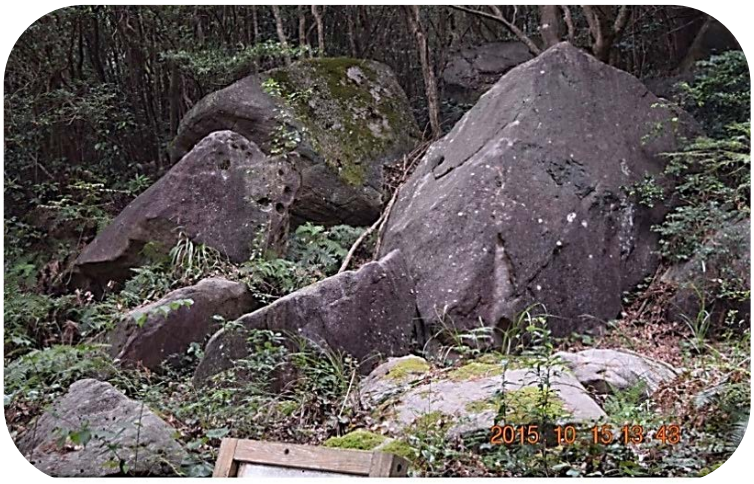
天草上島を八代海に沿って南下し、高舞登山（標高１１７ｍ）から鋸嶽（標高３４３ｍ）、白嶽（標高３７３ｍ）に至る尾根筋に九州自然歩道「天草観海アルプス」がある。八代海を眺望しつつのトレッキングコースであり、全長を歩けば一日コースだが、途中にいくつかの登山道がある。このため長短どのようにもなり、体力に合わせて歩くことができる。

国道２６６号を天草上島の中ほどまでドライブすれば、牟田漁港。それを過ぎたところで右折し、白嶽森林公園方面へ進み、林道白岳線から林道矢岳線に入れば、矢岳神社の少し手前で矢岳巨石群遺跡㉝に遭遇する（上天草市姫戸町姫浦５３９５-２付近）。誰が何のために彫ったのか謎であるが、大きいもので３０㎝程度の盃状の穴が連環する巨石もある。その姿から、ドクロ岩、宇宙船岩などと呼ばれている。巨大な支石墓と見ることもできるが、いずれにしても数千年以上も前の古代人の手によると信じられ、ミステリアスな風景ポイントである。

再び国道２６６号に戻り南下すれば、永目港近くの永目神社にご神木のアコウの大木が茂り、樹齢３００年以上とのことである。さらに進むと姫戸港、二間戸港など、津々浦々に港や漁港がある。続いて、上天草市龍ヶ岳町や天草市の倉岳町に入れば、龍ヶ岳への山道があり、それらを車で２０分ほど登れば山頂近くのミューイ天文台（０９６９-６３-０４６６）に至る。

ミューイとは聞きなれないが、星を「みよう」の方言「みよーい」に由来する命名である。口径５０㎝の本格的なカセグレン式反射型望遠鏡を備え、プラネタリウムがある。近くにキャンプ場があることから、夏になると、子供とともに新星発見の夢をみてはどうだろうか。

他方、龍が岳とは反対に、国道沿い（旧道）の高戸海水浴場から左折し、椚島（くぐしま）経由で橋を渡れば樋島（ひのしま）に至る。その東海岸に外平（ほかひら）海浜自然観察公園がある。手つかずの海浜がそのまま残る秘境であり、近くの島が干潮時に砂でつながるトンボロが見られるなど、自然の営みを観察するに適し大変貴重なである。



㉝　何を意味するのか？　矢岳巨石群（上天草市姫戸町矢岳神社周辺）

図 11　棚底地区の城跡と主な防風石垣の地域（天草市倉岳町）

㉞　棚底地区の家屋を囲む防風石垣

国道２６６号をさらにたどり小屋河内漁港、大道港に至ると、島の人々が自然の地形を上手に生かし暮らしているとの印象を受け、そうするうちに上天草市と天草市の市境に至り、棚底港に達する。そこで国道から倉岳の麓よりに少し入った尾根筋に向かうと、棚底城跡（国指定史跡、天草市倉岳町）がある。その昔、栖本氏と上津浦氏が激しく領土争いをした城跡であるが、幾度となく城館を築いたことから、８つの曲輪が繋がる連郭タイプの珍しい形式である。

図１１にみるように、棚底城の南側に棚底川が流れ、棚底湾に向けて扇状地が形成されている。これは、一帯が古第三紀教良木層で、崩れやすい頁岩と砂岩の互層をなし、その浸食が激しいことから形成されたものである。

いうまでもなく扇状地の上には田畑が展開、集落が形成されているが、そこでは自然石を用いて家々の周りに高い防風石垣が築かれた大変珍しい風景㉞に出会ことができる。これは、倉岳おろしと呼ばれる北風よけに敷地の北東、北西に築かれえたもので、高いものになると軒先に達し、強い風に

耐えるように幅広い石組みを工夫する一方で、風通しにも配慮するなど、そのデザインや積み方に地域の人々の知恵が感じられる。また、隣り合って石垣をなすことから、集落をまとめてみれば、巨大な迷路のようであり、現地の案内看板を頼りに注意深く石垣囲いの屋敷群を楽しむとよい。

図１１に示すように、石垣囲いの集落は、概略４つのブロックに分けられ、全部回っても２、３時間程度の歩きであるが、棚底城の見学ついでならば地区１を、天草市倉岳支所に車を止めれば地区２、３を主にして見るとよい。経済的、効率的ではあるが殺風景な現代のコンクリートブロックの塀に比して、人の営みと知恵から生まれた自然石の石垣であり、地域資源を生かし、特色あるまち中で暮らすことの意義やまちづくりのあり方が改めて問われるようでもある。

六　イルカウォッチングの天草下島北部を寄り道する

天草下島北部は、四章に述べたように、天草の乱とジオサイトの島だが、これに、天草の乱後の天領としての歴史、石橋めぐりなどが追加できる。つまり、風景街道の旅は陸上のドライブと海上遊覧船の組み合わせとなり、あまくさ風景街道巡りを一層充実させることができる（図１２）。

１　石橋と中世の城跡

天草は石材の採掘が盛んであり、それを用いて江戸や明治時代、天草にも石橋が作られた。つまり、御領、松島、岩谷、飛岳、下浦の各地区で石材が産出し、そうした場所に石工集団が生まれた。彼らは、世界遺産・三角西（旧）港⑨はもとより、長崎居留地の護岸やオランダ坂、西洋館、大浦天主堂の普請に活躍し、あるいは島内でも多くの石橋などの建設を行った。

天草で現在残る主な石橋は１３基。小規模なものを除くと表５のとおりである。タイプとしては、脚式アーチと単円の眼鏡型の２通りがあり、前者は天草の乱の激戦跡の町山口川にかかる祇園橋（国指定重要文化財。天草市中央新町・船の尾町）㉟である。長さは２９ｍ、幅は３．３ｍで、３０㎝の角柱を５列９行に並べて桁を支えアーチ状に並べる珍しい構造である。切支丹殉教戦二百年祭を期に、下浦産の石材砂岩を用い、下浦の石屋辰右衛門が建設した。

残る５つはアーチ橋そのものだが、一例を挙げれば、楠浦の眼鏡橋(県指定文化財。天草市楠浦町字中田原)㊱があり、１８７８年の建設である。橋長２６ｍ、橋巾３ｍで、やはり下浦産の石材砂岩を用い、下浦の石工末次らの手のよるものだが、建設期間は８０日であったといわれている。

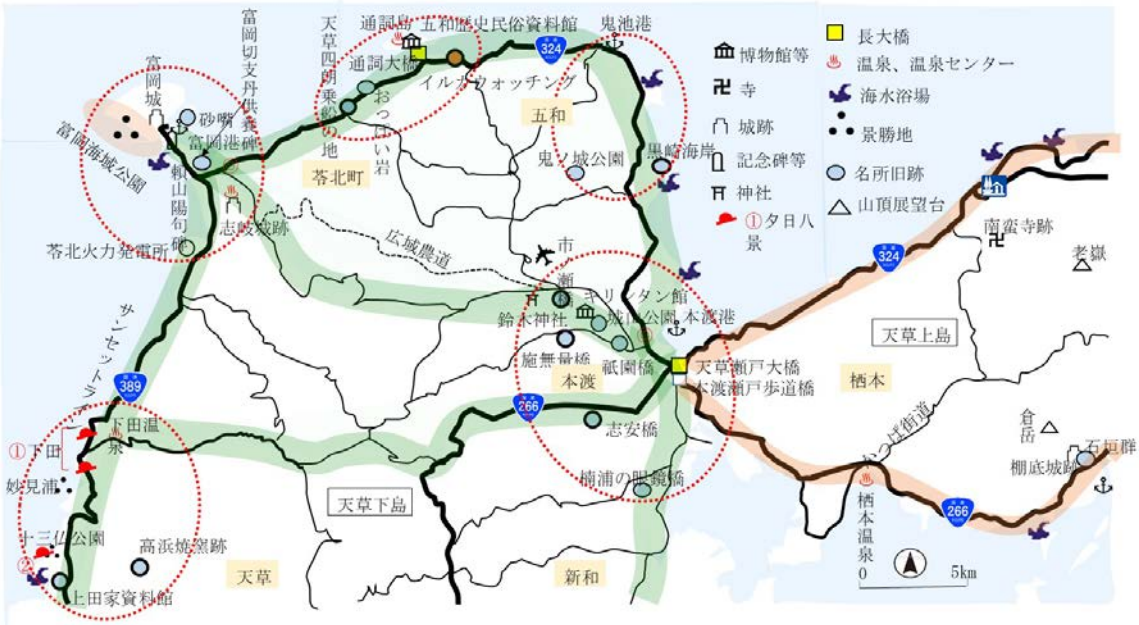


図 12　天草下島北部（本渡、五和、富岡、下田）を行く

表５　天草の石橋一覧

橋の名称	形式	橋長	橋幅	建設年	場所	河川名	備考
祇園橋	多脚式	28.6	3.3	天宝3年(1832)	天草市船之尾町	町山口川	国指定重要文化財
楠浦の眼鏡橋	アーチ	26.3	3	明治11年(1878)	天草市楠木浦町	方原川	県指定重要文化財
志安橋	アーチ	8.8	3	明治15年(1882)	天草市亀場町食場	宇土川	市指定文化財
施無畏橋	アーチ	22	3.4	明治15年(1882)	天草市本渡町本渡	町山口川	無量庵（寺）参道、県指定重文
市ノ瀬橋	アーチ	22.2	4.6	明治23年頃	天草市本町下河内	広瀬川	
轟橋	アーチ	12.5	5.5	大正3年（1914）	天草市河浦町今村	今田川	石炭運搬のため架設
寺橋（無量寺橋）	アーチ	8.15	2.8	明治26年(1896)	天草市久玉町	吉辺川	

これらの石橋はともに車は通れないが、歩けば丹念な石斧の刻み、被覆された土の柔らかさが靴底を介して感じられ、天草石工たちの汗の結晶が伝わる。

中世の城として、天草五人衆が築いたものの一つが天草氏の本渡城(天草市本渡町)である。この城は、本城ではないが歴史の節目に登場した重要な城であり、標高76mの尾根筋に作られ、本丸を3方から曲輪が囲み、現在の天草キリシタン館の位置に二の丸があった。国人一揆に際し、天草種元はここに籠城したが、加藤清正・小西行長勢に攻め落とされた。このため、城の遺跡として現在見るものは殆んどない。ただ、ここから島原湾を背景に本渡のまちが眺望できる(写真㊲)。

志岐氏の志岐城（苓北町内田(城山)）も現状は本渡城に同様である。若干の土塁、礎石の痕跡はあるが、現状は公園であり、中世に思いをはせながら散策するとよい。他に、富岡城の復元が挙げられ、最もよく残されているが、これについては三章に紹介したとおりである。

2　鈴木重成代官と鈴木神社

天草の乱後、天草の領地は唐津藩から没収され天領となり、その最初の代官として赴任したのが鈴木重成㊴である。三河出身で、徳川の幕臣として関ヶ原で戦い、その後の原城攻撃にも参加し、その武功で代官になった人物である。天草の復興に取り組み、島民達にとって鈴木重成などはかけがえのない恩人となり、今でも島の各地でまつれている。すなわち、兄の禅僧正三（しょうさん）師㊴と共に、キリシタン撲滅の受け皿づくりに社寺（天草市本渡町の明徳寺㊳など）を建立し、また戦災復興に努力したが、それ以上に改めての検地で天草の石高が実収にあわず半分に過ぎないことを明らかにしたことが挙げられる。表向き4万2千石であったが、実際はその半分の2万1千石であり、このことを幕府に直訴したものの認められないままに亡くなった。直訴の責任を取って自殺したとよく語られるが、実際は病没ではといわれている。その後。これを引き継いだのが、養子で2代目の代官となった重辰（しげとき）で、訴え続け、1659年になりようやく認められた。

こうしたことから、島の人達は鈴木代官ら3人の遺徳を忘れまいと、重成、正三、重辰の三公を島の守り神とし、各地に鈴木神社を建て未だに崇拝し、その主殿が天草市本町の鈴木神社㊵である。伝えられている天領音頭の一節を紹介すれば、

㉟　珍しい多柱式アーチ石橋の祇園橋

㊱　楠浦のアーチ石橋

㊲　城山公園から天草の中心市街地本渡町を望む

㊳　明徳寺の山門と仁王像（天草市本渡町）

「四郎の夢も命に代えて　茨の道に灯をともす　灯をともす
　天領天草鈴木さま、鈴木さま　天領天草鈴木さま、鈴木さま」。

鈴木重成公の像が富岡城の上り口に、鈴木兄弟の像が富岡城に、兄弟に重辰公を加えた像が国道３２４号沿いの天草信用金庫本店（天草市太田町）横にある。よそ者には、一代官にどうしてそこまでと映るだろうが、当時の年貢の苛酷さがそれほどに酷いものであり、だからこそ天草島原の乱になったともいえ、乱の後に三河からやってきた代官の働きに恩を報いたい島の人たちの気持ちを如実に表わすものである。

３　イルカウォッチング

イルカウォッチング㊶は、通詞島沖合に生息するミナミハンドウイルカを船上から観察するものである。島原湾の湾口部に住み着いているイルカが多数で群れをなし、船に並走しながら、波しぶきをあげて飛び跳ねるさまは、水族館の手なずけたショーとは全く異なる迫力である。なお、ミナミハンドウイルカは、バンドウイルカよりも体はやや小さく(大きくてせいぜい３ｍ)、口先が細長く、天草では２００頭ほどが住み着いている。遊覧船による遭遇率が９８％といわれるほどに、群れをなして常に泳ぎ回っている。

㊴　富岡城二の丸に建つ回天之碑

㊵　鈴木三公を祀る鈴木神社（天草市本町）

㊶　ダイナミックなイルカウォッチングを楽しむ

国道３２４号を五和方面に走ると二江に天草イルカインフォーメーションや遊覧船の発着場マリンワールドなどがある。１年中見学ができ、季節にもよるが、１日に５～９便のウォッチング船が運航され、所要時間は約１時間である。また、この他にも、天草松島からシークルーズ、苓北観光汽船によるウォッチングがあり、いずれも３便／日で、所要時間は約２時間である。

図１２に下島北部の各風景ポイントを示す。主な個所は図中の赤点線円のとおりで、大まかに４ゾーンにまとめられる。本渡、五和、富岡、下田の各地区があり、すべてを丹念に見て回れば丸１日はかかるであろう。

七　南蛮文化の里と夕陽八景の天草

下島南部を巡る

１　南蛮文化と世界遺産「崎津集落」をめぐり行く

下田より十三仏公園から高浜に至ると、そこに高浜焼の窯元があり、上田家資料館がある（図１３）。高浜焼は村民の暮しを支えるために庄屋「上田家」が陶工を招いて窯を開き、代々伝えたものである。西海岸の純度が高い陶石を用いた白磁だが、明治時代に一度廃窯されたものの、戦後に再興されたが、この間を含めれば二百年の歴史がある。資料館には貴重な古文書や、海外にまで輸出された陶磁器が陳列されている。

また、上田家庄屋屋敷そのものは、正門や表玄関など一部は明治時代のものだが、

その基本は江戸時代から続く古民家である。国の登録有形文化財で、与謝野鉄幹・晶子夫妻も宿泊したとのことだが、痛みが激しいので土間からの見学とならざるをえない。

さらに南に下ると大江教会㉑、﨑津教会㉒があり、これらは三章に紹介したとおりである。加えて、その風景ポイントとして大江に天草ロザリオ館がある。潜伏キリシタンの遺物を集めた貴重な資料館であり、サンセットラインに沿った教会近くにあり、見つけ易い。

隠れ部屋が再現され、あるいは、背中に十字架が描かれたマリア観音や、経を封じ込めるための「経消しの壺」の展示がある。厳しい弾圧のもとで、隠れながらのキリスト教の信仰があり、さまざまな工夫と苦難の物語を知ることができる。

国道３８９号と２６６号が交わるところに天草コレジヨ館（天草市河浦町白木河内）がある。ここでの見ものは１６世紀に河浦に伝えられた南蛮文化だが、それを代表するものが、天正少年遣欧使節が持ち帰ったグーテンベルク印刷機㉔である。残念ながら、本物は宣教師の国外追放とともにマカオにおくり返されたが、コレジヨ館で忠実に再現されたものが展示されている。わが国最初の活版印刷機で、みんなも知っての伊曾保（イソップ）物語や平家物語、あるいは羅葡日辞典などの天草本が多数印刷された。伊曾保物語（１５９３）は、西洋文学翻訳の最初のものであり、平家物語（１５９２）は、宣教師の命で日本語ならびに日本の歴史の学習用に編纂されたものである。

なお、コレジヨとは、カトリック教会の聖職者等の育成のための高等教育施設のことである。１５９１年から１５９７年まで天草の河浦にあったが、その後長崎に移された。先に紹介したように、現在の河浦コレジヨ跡公園（天草市河浦支所付近）がそれと目されている。近くの河内浦城（天草氏の居城）跡公園や崇園寺（天草４ヶ本寺の一つで、代官鈴木重成が再建した古寺）と合わせて訪ね、疲れれば近くの天然温泉「愛夢里」で一休みし、島に築かれた田舎をとことん満喫するとよい。

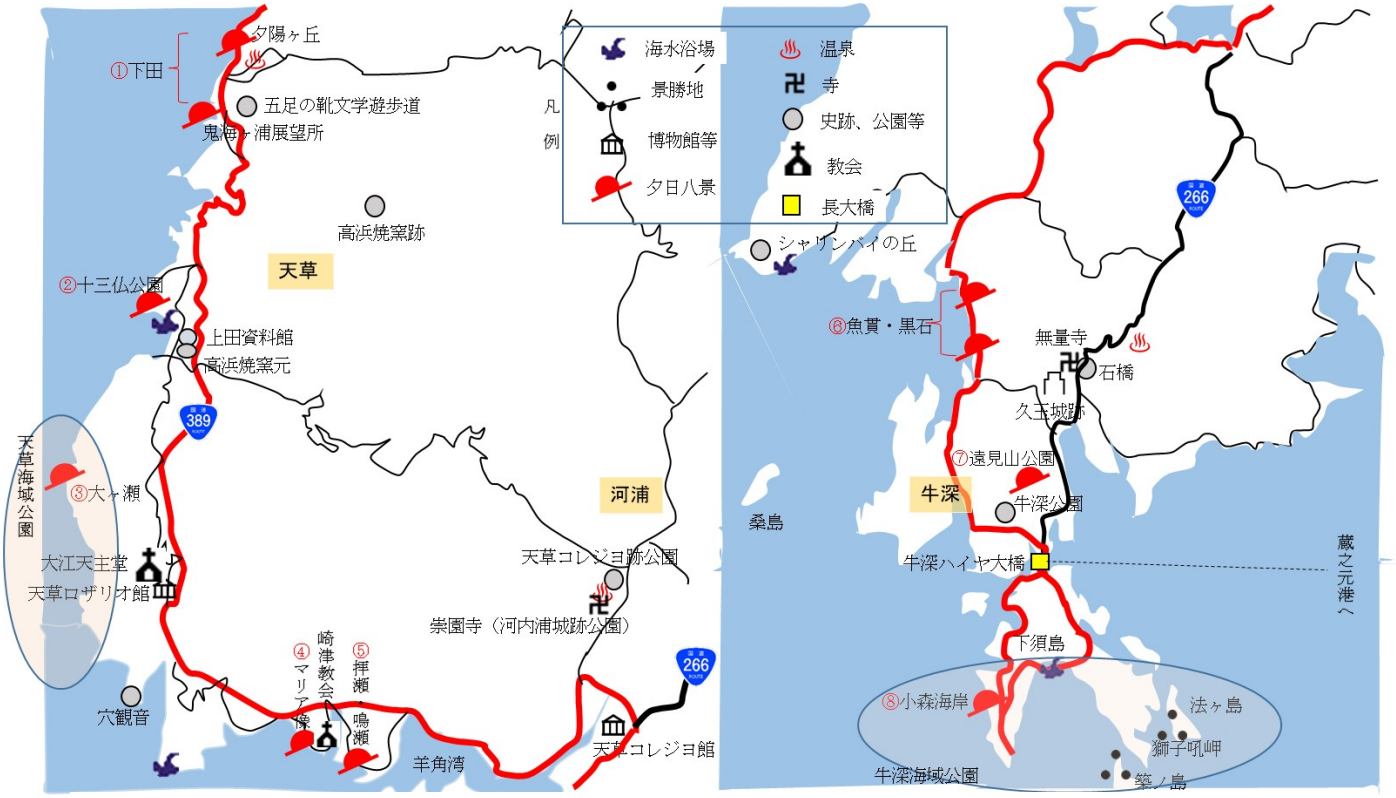


図 13　天草下島の南部ブロックと下種島を行く

要するに。天草は、さほど大きくなく、わが国の西端に位置する。それにもかかわらず、日本における南蛮文化の夜明けに大きく貢献した島であり、九州はいうに及ばず、日本全体でみてもいかに重要な意味をもっていたかが分かる島である。

２　夕陽八景を眺めながら海中探訪の道を行く

天草下島の南部(図１３)は、西海岸に沿う地平線、岩礁などの景観眺望箇所が点在し、それらを前景あるいは背景とする夕陽が見事である。頼山陽の漢詩「泊天草洋」の出だしにあるように、〝雲か山か呉か越か　水天髣髴（ほうふつ）青一髪〟。天草の夕陽は、こうした一筋の髪にしきられる東シナ海の地平に沈む。あるいは、一章に述べたように、天草は、まさに海と天空が一線に交わり、それに草（夕陽）が重なる島であることを思い知るであろう。

２０１１年、島の人たちで夕陽八景を選定。翌年、天草西海岸サンセットラインにそって展望台などが整備された。図１３に、下田から小森海岸(牛深)までの選定地点を付記するが、それぞれの箇所に、次頁の写真に示すような案内標識が設置されている。夕陽の時間帯は季節で異なり、夕方５時２０分頃から７時３０分頃までの間だが、当然ながら一日一回

の現象だから全てを見るには８日以上が必要である。しかも、天気の良い日だけを選び、真っ赤な夕陽をとなれば、一巡するのにかなりの日数を要し、島民同様の生涯の夕日巡礼の意味をもつことになるであろう。

夕陽を見て下田温泉につかり、大江教会㉑に祈って夕陽を眺め、世界遺産の崎津集落㉒をまち歩きしてマリア像の夕陽に祈るなど。時間をはかりながらの夕陽八景めぐりは、各人それぞれの願があり、大願成就があるとも考える。

一方、昼間、海に潜ればサンゴや海中植物などが群生し、熱帯魚の宝庫を見ることができる。このことから、雲仙天草国立公園内の富岡、天草、牛深の３か所が、わが国はじめての海域公園として指定された。いずれも十分に海中探訪ができ、マリンスポーツを楽しむことができる。たとえば、牛深の海域公園を取り上げれば、天草の最南端の下須島の突端の築の島との間の海域である。牛深港のハイヤ大橋㊷横の海彩館の先にある桟橋から、海中散歩のグラスボートおよび夕陽クルージング、かもめウォッチングの遊覧船（冬）が運行されている。グラスボートは日に５便あり、１時間２０分程度のクルーズである。

海がきれいな魚貫港とそれに続く黒石海岸の夕日八景の案内板

㊷　みごとな曲線を描く牛深ハイヤ大橋（牛深港）

下須島と牛深海域公園

八　御所浦まち中の化石の路地を探る

御所浦島には２か所の港がある。天草上島寄りの嵐口港と、下島より中央部の御所浦港（本郷港）である。そのうち御所浦港では、御所浦白亜紀資料館やジオパークとして紹介した化石公園以外に、港周辺（図１４のオレンジ色楕円）の民家で、庭石や石垣、外壁に用いた石材、石臼、石地蔵などから多くの化石が見つかっている。トリゴニア、二枚貝などが生活する中にあるが、これらを訪れ

図 14　恐竜の島”天草御所浦ジオパーク”

る人誰もが見学できるようにと、「まちなか化石の家」の登録制度㊸があり、旅行者が出入りできるよう門柱などに登録証を張り付け開放されている。現在では、全部で１２か所の登録があり、資料館に隣接する半径数百ｍの範囲内の地区にまとまっている。

地図を片手に、あるいは、御所浦白亜紀資料館内のジオツーリズムガイドの会（０９６９-６７-２３２５）の案内でめぐるとよい。天草ジオパークとして紹介した化石に加えて、まち中の化石をめぐりつつ、島の暮らしや生活、風習、出来事を聞くことは思いもよらぬ面白さがある。島の化石路地を寄り道し回遊することは、一億万年前から現代に至る時の流れを旅する風景街道となろう。

㊸　民家の庭先など化石を訪ね歩く（御所浦島）

―― 天草の情報 ――

九　多彩な天草の祭り、食、宿泊等

冒頭にも紹介するように、天草は平成の合併以前は１５の市町に分かれ、それぞれに行事や風習があり、地場産品づくりや観光開発などの振興が図られてきた。当然ながら、それらは今に引き継がれている。したがって、このことを踏まえ、従来の地域区分をもとにして（下図）、祭りやホテル等の状況を紹介しよう。

１　天草を代表する「牛深ハイヤ祭り」

天草の各地で催されている祭りや各種イベントを表６に書き出した。それらの中で、全国的に知れ渡っている祭りは何といっても牛深ハイヤ祭りである。毎年４月の第３金曜日に前夜祭、土日に市民総参加で催される。

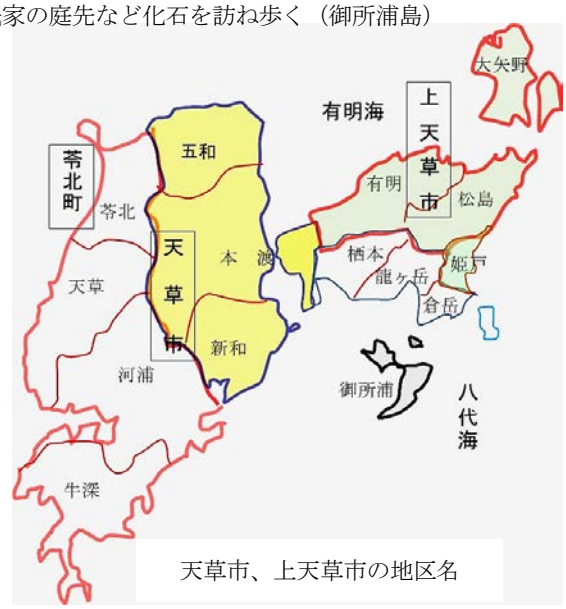
「ハイヤエー　ハイヤ」の掛け声とともに始まる強烈な南国のリズムのもと、路上いっぱいにおどることに特色がある。江戸時代から伝わる牛深の伝統的な祭りであり、元祖ハイヤ祭りである。ハイヤとは南風をハエの風と称し、それがなまったものである。

エーッサ　牛深三度行きゃ三度裸　鍋釜売っても酒盛りゃして来い
戻　りゃ本渡瀬戸徒歩（かち）渡り
（アヨイヤサーヨイサー）ヨイサーヨイサー
（サッサヨイヨイ）サッサヨイヨイ

港まちら　しく、ドンチャン騒ぎのイメージがする祭りである。

また、牛深は北前船などのしけ待ちの港でもあった。このことから、ハイヤ節は全国に伝搬し、４０箇所以上で同様の祭りが催されている。北海道の江差餅つき囃子、岩手の南部あいや節、徳島県の阿波踊り、広島の鞆の浦ハイヤ節等々がある。また、こうした状況を踏まえ、６月には牛深ハイヤ節全国大会が催されている。

他にも、上津深江八坂神社の裸祭、海を渡る祭礼「産島八幡宮大祭」などの海の祭りがある。その一方で、富岡神社初午大祭、虫追い祭り（天草市河浦町）など、五穀豊穣を祈る農村のまつりがある。さらに祭りではないが、マラソンやペーロン大会なども盛んである。



天草市、上天草市の地区名

2　各地に展開する天草のホテルなど

観光地だけにホテルなどは島々の各地に点在する。特に、大矢野島・天草上島の松島地区、天草市の中心市街地・本渡、天草下島の下田温泉地区および牛深地区に多くのホテル等がある。３００室近いものから１０室に満たない小規模な旅館や民宿までと多彩である。小さくても工夫を凝らしたもてなしや家庭的な雰囲気があり、これまた楽しみであり、同時に天草の暮らしを知ることができる。ただ、時には、前述のような人気の祭りがあるときや、夏場の海水浴シーズンなどには多くの人々が押し寄せる。このため、全体で１５０近いホテル・旅館等がありながらも、予約が取りにくいことがあるので注意が必要である。

3　海・山の幸豊かな天草の食と特産品

三章の冒頭に紹介した「五足の靴」紀行文と異なり、天草の現代は水産業や農業が発達し、多くの海、山の幸に恵まれている。海の幸は、有明海、八代海、天草灘といった近海ものが主で、タコ、鯛、アワビ、伊勢エビ、ふぐなどが水揚げされている。また、養殖クルマエビ、ウニ、緋扇貝があり、小ガニの塩辛の一種であるがん漬け、天然の塩などもある。

これら海の幸を使った食は、料理店、レストランはむろんのこと、天草のホテル、旅館・民宿の至る所で味わうことができる。有明ではタコ八料理、御所浦ではふぐ（ふっきん）料理、本渡では海鮮丼、下田では伊勢エビグルメなどと特色を打ち出すものも多い。あるいは、具沢山の〝天草ちゃんぽん〟も人気の食である。

山の幸は、かつて年貢に苦労し主食としただけに改良を加え、今ではサツマイモとそれらを使った加工品（だご汁、こっぱもち、焼酎など）が特産品として並んでいる。

デコポン、天草晩柑、天草緑竹（タケノコ）など、さらに、天草黒牛、天草大王(鶏）も天草ならではの味わいである。

表６　天草各地で催されている祭りとイベント

月	祭り、イベント	開催地	問合せ先
1	上津深江八坂神社裸祭り	苓北町上津深江八坂神社	苓北町観光案内所　（0969-37-1136）
2	大作山観音祭り	上天草市龍ヶ岳町	
3	天草パールラインマラソン大会	上天草市大矢野町中	天草パールラインマラソン組織委員会事務局（0964-56-4701）
	富岡稲荷神社初午大祭	苓北町富岡稲荷神社	
4	牛深ハイヤ祭り	天草市牛深	天草市牛深支所産業振興課(0969-73-2111) 牛深商工会議所(0969-73-3141)
5	下田温泉祭り	天草市天草町	
6	牛深ハイヤ節全国大会	天草市牛深	天草市牛深総合センター（0969-73-4191）
7	さざ波フェスタ	天草市有明町四郎ヶ浜ビーチ	（一社）天草宝島観光協会（0969-22-2243）、 天草市観光振興課（0969-23-1111）
	苓北じゃっと祭(ペーロン大会、花火大会)	苓北町富岡港周辺	苓北町商工会(0969-37-1244),苓北町役場商工観光課（0969-35-111）
8	天草ほんどハイヤ祭り	天草市本渡	本渡商工会議所　（0969-23-2001）
	教会の見える﨑津みなとのﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ(花火大会)	天草市河浦町﨑津	天草市商工会河浦支所　（0969-76-0132）
9	御領石竹秋宵祭り	天草市五和町	
10	天草殉教祭（祇園橋でのキャンドル行列）	天草市本渡	
	吟詠「天草洋に泊す」全国大会	苓北町	
	海を渡る祭礼「産島八幡宮大祭」	天草市河浦宮野河内	宮野河内公民館　（0969-78-0001）
11	天草マラソン大会	天草市、苓北町	天草市スポーツ振興課（0969-32-6783）
	栖本例大祭	天草市栖本町	
	栖本かっぱ祭り	天草市栖本町古江	栖本地区振興会(天草市栖本支所)（0969-66-3111）
12～1	大江天主堂、﨑津天主堂のクリスマスイルミネーション		天草市天草町、河浦町

工芸品には、ジオパークで紹介したように、天草陶石を用いた焼き物があり、天草全体では３２の窯元がある。特に、陶石の産地である天草下島で、北部の本渡、五和、苓北、西海岸の下田、高浜、大江などに窯元が集まり、良質で、個性ある天草陶磁器が作られている。春と秋に天草西海岸の窯元めぐりが催され、旅のついでに立ち寄ると掘り出し物に出会うであろう。

工芸品では、天草土（どろ）人形、天草手まり、天草押し絵、天草バラモン凧、竹細工などが有名である。

地場産品は、当然ながら天草の土産物店で広く売られているが、生産者が持ち寄り直売する店も多く、表７に示すとおりである。

表７　天草の直売所

	名称	電話	住所	備考
上天草市	さんぱーる	0964-58-5600	大矢野町中11582-24	国道324
	松島ふれあい市場	0969-56-1172	松島町合津3330-1	
天草市	リップルランド(道の駅)	0969-53-1565	有明町上津浦1955	
	ふれあい市場	0969-64-3340	倉岳町棚底2066-3	国道266
	しおさい館	0969-67-1234	御所浦町御所浦4310-8	県道333
	オレンジショップ	0969-24-1464	下浦町3224-1	国道266
	天草とれたて市場	0969-32-6888	瀬戸町2-1	国道342
	グリーントップ本渡	0969-24-1516	八幡町1-26	
	わかみや	0969-32-1700	五和町御領9490-1	
	やさい村	0969-34-0098	五和町井出3006-3	県道47
	ユメール	0969-26-4011	五和町二江547	通詞島
苓北町	苓北町物産館	0969-37-0725	苓北町上津深江4535-1	国道324
	もやい倶楽部	0969-36-0426	苓北町都呂々20	国道324
天草市	しんわタやけ市場	0969-46-2039	新和町小宮地127-1	県道26
	まごころ市場	0969-45-0373	天草町福連木3372-1	県道24
	よんなっせ	090-5299-3880	宮地岳町716-1	国道266
	立原の里直売所	0969-76-0909	河浦町立原1031	
	愛夢里	0969-76-1526	河浦町河浦4747-1	県道35
	やすらぎの湯	0969-72-6666	久玉町内ノ原2193-2	国道266
	㈱うしぶか海彩館	0969-73-3818	牛深町2286-116	

注）営業時間及び定休日は各々で異なるので問合せること

4　天草の道の駅と情報センターなど

天草には、道の駅として「上天草さんぱーる」と「有明」、「牛深海彩館」の３つがある（表８）。いずれも国道２６６号沿いで、大矢野島、天草上島、天草下島に分散している。

「上天草さんぱーる」は大矢野島の天草四郎メモリアルホールの前にあり、天草四郎観光協会が併設されている。地図やルート情報、観光案内を得ることができる。「有明」は、天草上島の中ほどの天草市有明町にあり、物産館に加えて、情報館での情報提供がある。「牛深海彩館」は、牛深ハイヤ大橋の真横にあり、遊魚が泳ぐ大型いけすがあり、海産物加工品の販売店が並び、漁業資料館が併設されている。

道の駅以外の情報案内所などは表９のとおりである。天草市御所浦は、道の駅はないが、物産館「しおさい館」（表７）があり、そこで観光案内を行っている。また、市や町の担当課および観光協会があり、不明なことがあれば遠慮することなく問合わせるとよい。

加えて、各地にボランティアガイドの会があり、安い料金で案内を頼むことができる（表１０）。案内が有るとなしでは旅の趣も大きく異なり、事前に予約し、積極的に利用することをお勧めしたい。

㊹　ありあけタコ街道（道の駅「有明」付近）

表８　　天草における３つの道の駅

上天草さんぱーる(国道266号)	0964-58-5600	上天草市大矢野町中1582-24

○提供エリア及び提供時間　　情報提供コーナー2か所設置(1か所は24時間対応)
天草四朗観光協会　8:30～17:30
公衆無線LAN「くまもと無料Wi-Fi」
○情報提供機器　ケーブルテレビ(各情報施設に1台)、無線LAN機器
観光協会職員、物産館職員による案内
○情報提供内容

［観光情報］	観光協会職員による天草、宇城の案内、チラシで提供
［医療情報］	公衆無線LANから市のHPを通じて提供
［他の「道の駅」の情報］	なし
［その他情報］	気象情報、交通規制情報

有明　（国道324号）	0969-53-1565	天草市有明町上津浦1955

○提供エリア及び提供時間　　「物産館」内　8:30～18:30（11月～3月　8:30～18:00）
○情報提供機器 掲示板　1台
○情報提供内容

［道路情報および近隣の「道の駅」情報］	ルート情報、災害情報を掲示板、地図・チラシで提供
［観光情報］	駅周辺の観光、宿泊施設情報を掲示板、チラシで提供
［医療情報］	医療情報を掲示板で提供
［他の「道の駅」の情報］	なし
［その他情報］	なし

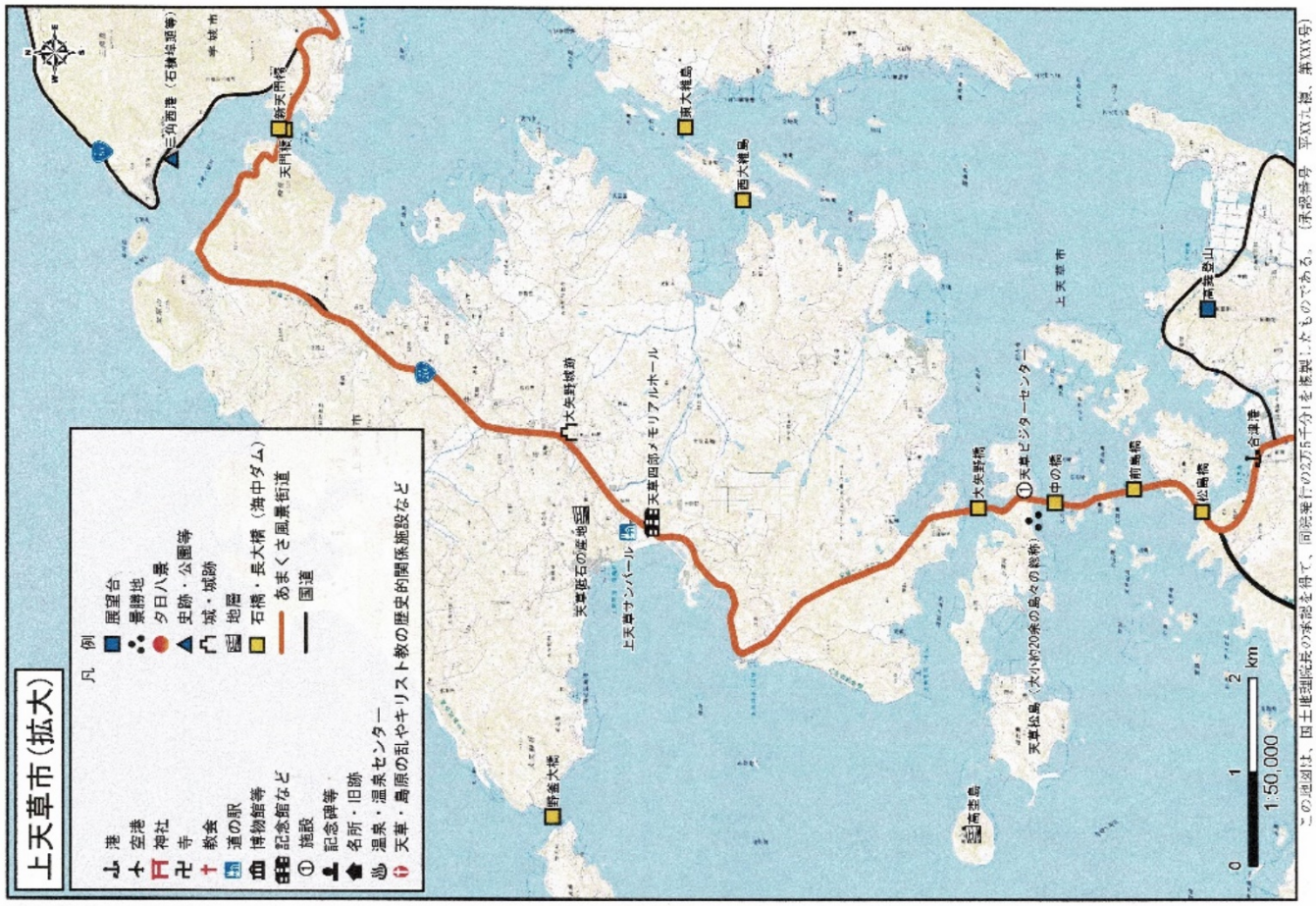
牛深海彩館(国道266号)	0969-73-3818	天草市牛深町2286-116

○提供エリア及び提供時間　　物産館内　24時間可能
○提供提供機器
○情報提供内容
［道路情報および近隣の「道の駅」情報］

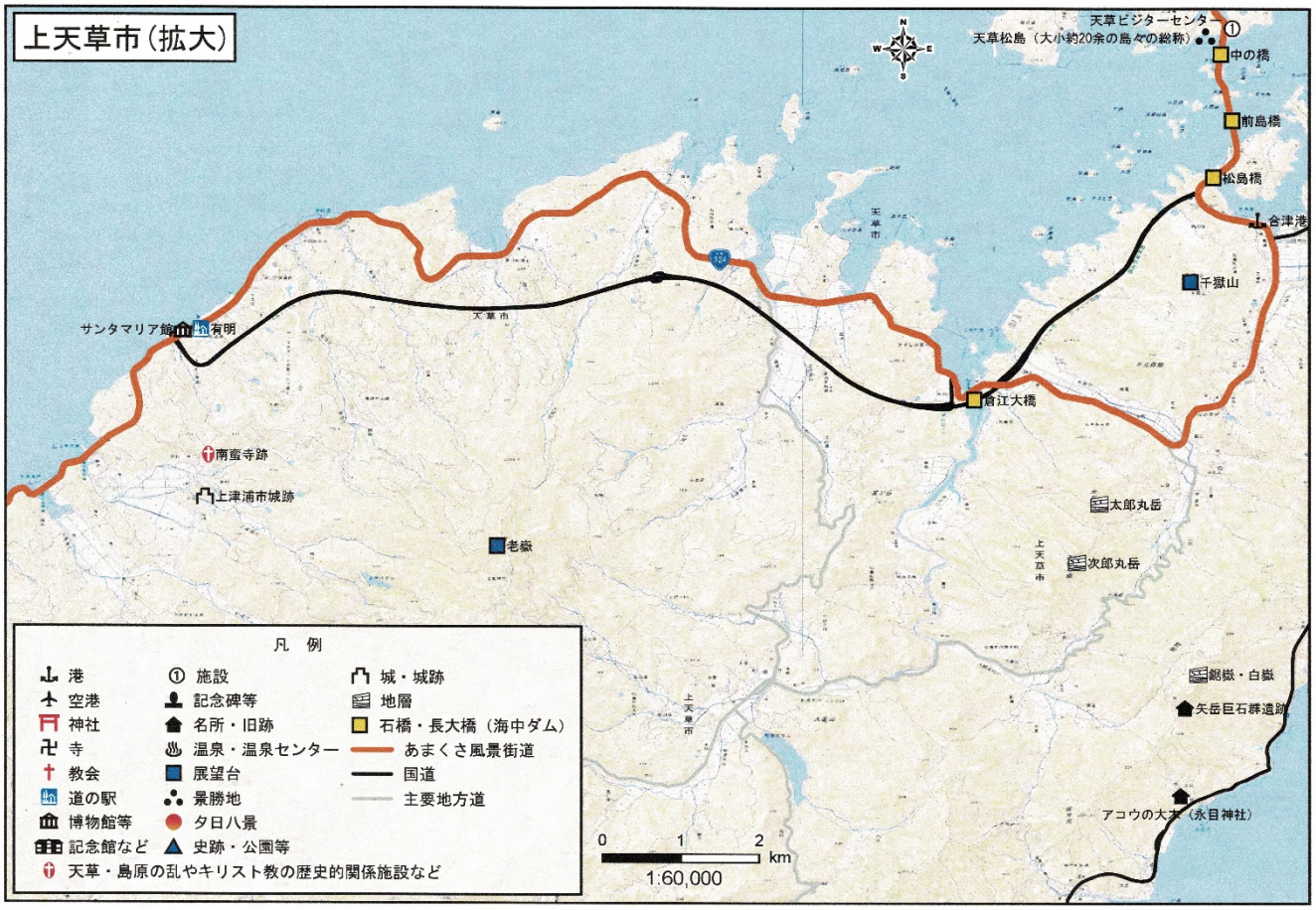
観光情報	観光案内所へ移設、案内人、観光パンフレット・イベントチラシで提供
医療情報	なし
［他の「道の駅」の情報］	なし
［その他情報］	なし

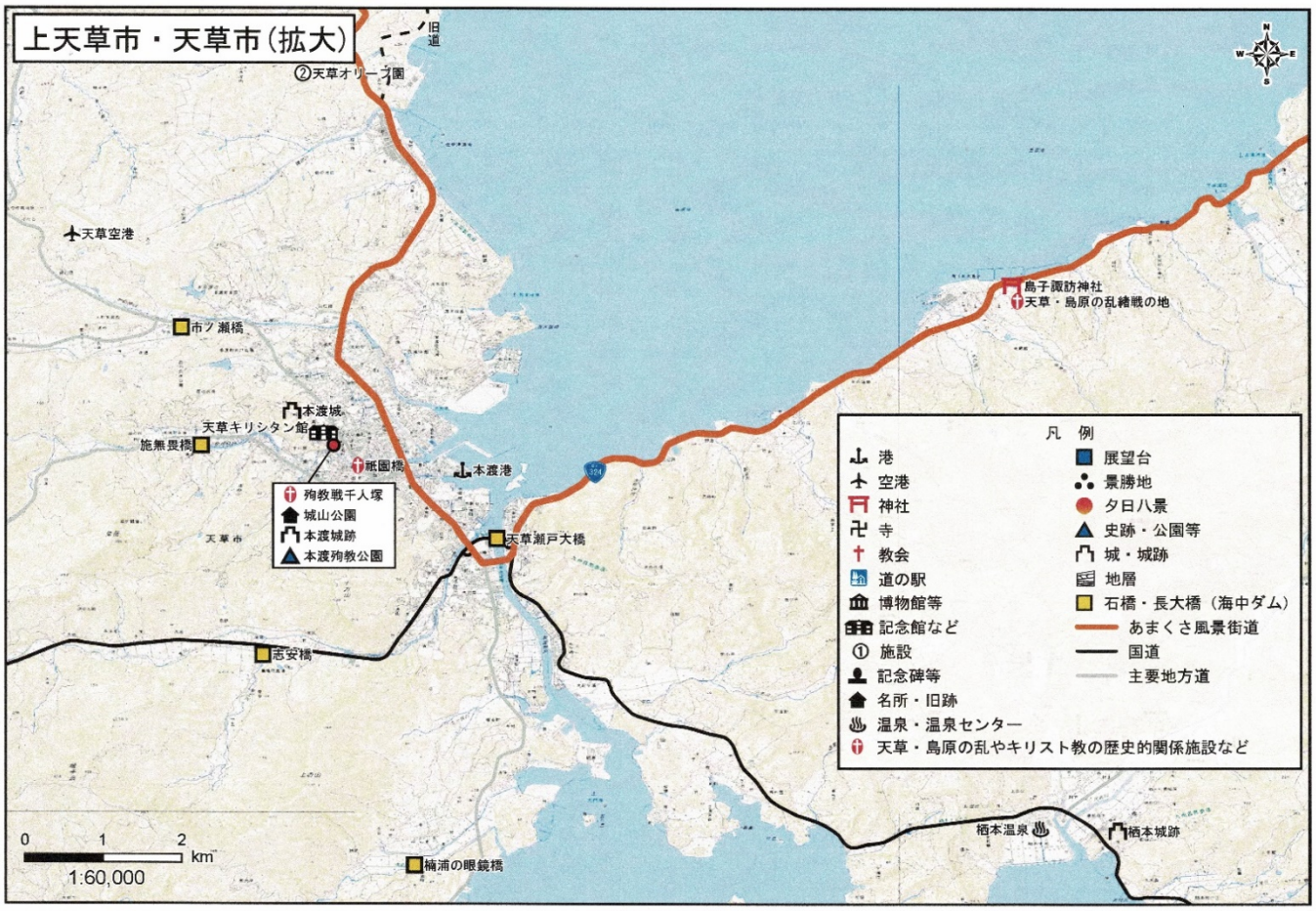
表９　天草の情報センター、観光協会など

市町	名　称	電　話	住　所
上天草市	（一社）天草四朗観光協会	0964-56-5602	大矢野島町中11582-24
	上天草市観光おもてなし課	0964-26-5512	大矢野島町1514
	上天草観光ガイドの会	0969-56-5602	大矢野島町中11582-24（（一社）天草四朗観光協会）
天草市	天草市観光振興課	0969-32-6787	中央新町15-7　天草国際交流会館ポルト内
	（一社）天草宝島観光協会	0969-22-2243	中央新町15-7　天草国際交流会館ポルト内
	天草宝島案内人の会	0969-22-2243	中央新町15-7（（一社）天草宝島観光協会）
	牛深ガイドの会	080-6415-3969	牛深町（牛深観光案内所）
	御所浦白亜紀資料館	0969-67-2325	御所浦町御所浦4310－ 5
	御所浦ジオツーリズムガイド	0969-67-1080	御所浦アイランドツーリズム推進協議会
苓北町	苓北町商工観光課，観光協会	0969-35-1111	志岐660
	苓北町観光ボランティアガイド協会	0969-35-1111	志岐660
三角西港の観光ボランティアガイド		0964-53-0010	宇城市観光物産協会観光案内所（ＪＲ三角駅構内）
熊本県天草広域本部		0969-22-4214	天草市今釜新町3530



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1を複製したものである。（承認番号　平XX九基、第XXX号）




上天草市・天草市（拡大）
旧道
②天草オリーブ園
天草空港
市ノ瀬橋
本渡城
天草キリシタン館
施無畏橋
祇園橋
本渡港
殉教戦千人塚
城山公園
本渡城跡
本渡殉教公園
天草市
天草瀬戸大橋
志安橋
楠浦の眼鏡橋
島子諏訪神社
天草・島原の乱緒戦の地
栖本温泉
栖本城跡
凡　例
港
空港
神社
寺
教会
道の駅
博物館等
記念館など
① 施設
記念碑等
名所・旧跡
温泉・温泉センター
天草・島原の乱やキリスト教の歴史的関係施設など
展望台
景勝地
夕日八景
史跡・公園等
城・城跡
地層
石橋・長大橋（海中ダム）
あまくさ風景街道
国道
主要地方道
0 1 2 km
1:60,000

天草市（拡大）
五和町歴史資料館
通詞大橋
イルカマリンワールド
おっぱい岩
天草四郎乗船の地
上津深江八坂神社
志岐城
鬼池港
天草市
黒崎海岸
旧道
鬼の城公園
②天草オリーブ園
天草空港
市ノ瀬橋
凡　例
港
空港
神社
寺
教会
道の駅
博物館等
記念館など
① 施設
記念碑等
名所・旧跡
温泉・温泉センター
天草・島原の乱やキリスト教の歴史的関係施設など
展望台
景勝地
夕日八景
史跡・公園等
城・城跡
地層
石橋・長大橋（海中ダム）
あまくさ風景街道
主要地方道
航路
0 1 2 km
1:60,000

天草市（拡大）
②十三仏公園
十三仏公園
上田家資料館
高浜焼窯元
高浜変成石
天草陶石　高浜焼窯跡
高浜焼窯跡
轟橋
③大ヶ瀬
旧道
天草海域公園
大江教会
天草ロザリオ館
大江城跡
大ヶ瀬
天草コレジヨ跡公園
河内浦城跡
崇園寺
天草コレジョ館
崎津教会
崎津集落
（天草市崎津、今福の文化的景観）
崎津諏訪神社
④マリア像
⑤拝瀬・鳴瀬
軍ヶ浦海岸
⑥魚貫・黒石
凡　例
港
空港
神社
寺
教会
道の駅
博物館等
記念館など
施設
記念碑等
名所・旧跡
温泉・温泉センター
天草・島原の乱やキリスト教の歴史的関係施設など
展望台
景勝地
夕日八景
史跡・公園等
城・城跡
地層
石橋・長大橋（海中ダム）
あまくさ風景街道
国道
主要地方道
0　1　2　km
1:70,000

苓北町（拡大）
凡　例
港
空港
神社
寺
教会
天草・島原の乱やキリスト教の歴史的関係施設など
道の駅
博物館等
記念館など
施設
記念碑等
名所・旧跡
温泉・温泉センター
展望台
景勝地
夕日八景
史跡・公園等
城・城跡
地層
石橋・長大橋（海中ダム）
あまくさ風景街道
主要地方道
航路
砂嘴・砂洲
富岡ビジターセンター④
富岡城
富岡海域公園
富岡港
白岩崎
頼山陽句碑
富岡神社
富岡切支丹供養碑
志岐城
苓北町郷土資料館
苓北火力発電所
下田温泉
①下田
五足の靴文学遊歩道
天然陶石の露頭（内田皿山焼）
妙見ヶ浦
0　1　2　km
1:60,000

日本風景街道
あまくさ風景街道
ルートマップ
日本風景街道
Q-13 あまくさ
Scenic Byway
凡例
港
空港
神社
寺
教会
道の駅
博物館等
記念館など
天草・島原の乱やキリスト教の歴史的関係施設など
施設
記念碑等
名所・旧跡
温泉・温泉センター
展望台
景勝地
夕日八景
史跡・公園等
城・城跡
地層
石橋・長大橋（海中ダム）
あまくさ風景街道
国道
主要地方道
鉄道
航路
1 天門橋
新天門橋
2 ① 天草ビジターセンター
天草松島
3 有明
サンタマリア館
4 島子諏訪神社
天草・島原の乱緒戦の地
殉教戦千人塚
祇園橋
天草キリシタン館
5 城山公園
本渡殉教公園
本渡城跡
6 富岡神社
富岡切支丹供養碑
7 富岡港
頼山陽句碑
8 ④ 富岡ビジターセンター
富岡城
9 富岡海域公園
白岩崎
10 五足の靴文学遊歩道
天然陶石の露頭（内田皿山焼）
11 ②十三仏公園
十三仏公園
12 高浜焼窯跡
天草陶石　高浜焼窯跡
13 上田家資料館
高浜焼窯元
14 大江教会
天草ロザリオ館
茂木港行き
通詞大橋
五和町歴史資料館
おっぱい岩
③ イルカマリンワールド
砂嘴・砂洲
天草四郎乗船の地
上津深江八坂神社
苓北町郷土資料館
志岐城
苓北火力発電所
鬼池港
黒崎海岸
鬼の城公園
② 旧道
天草オリーブ園
天草空港
市ノ瀬橋
鈴木神社
施無畏橋
本渡港
天草瀬戸大橋
志安橋
下田温泉
①下田
妙見ヶ浦
楠浦の眼鏡橋
楠浦大橋
栖本温泉
栖本城
原城跡
口之津港
湯島（談合島）
上天草サンパール
天草砥石の産地
三角西港（石積埠頭等）
三角港
野釜大橋
大矢野城跡
天草四郎メモリアルホール
東大維島
西大維島
高戸島
大矢野橋
中の橋
前島橋
松島橋
高舞登山
千獄山
合津港
倉江大橋
南蛮寺跡
上津浦市城跡
老嶽
太郎丸岳
次郎丸岳
鋸嶽・白嶽
矢岳巨石群遺跡
アコウの大木（永目神社）
倉岳
棚底城跡
棚底の石垣群
ミューイ天文台
外平海浜自然観察公園

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1を複製したものである。（承認番号　平XX九複、第XXX号）

九州風景街道のガイドブック一覧

List of Guidebook of Scenic Byway Kyushu

http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/fukeikaido/guidebook.html

（上記のホームページからコピーできます。（無料））

全体編　○Japanese Edition:　**九州の風景街道**　　**その１　総論**

○English Edition：　**Scenic Byway Kyushu**　**Part 1 Overview**

その２　ルート別ガイド	Part2	Leaflet by Route
日南海岸きらめきライン	Q-❶	Nichinan Sparkling Coast
日豊海岸シーニック・バイウェイ	Q-❷	Nippo Seashore Road
ながさきサンセットロード	Q-❸	Nagasaki Sunset Highway
北九州おもてなし“ゆっくりかいどう”	Q-❹	Kitakyushu Hospitality Roads
ちょっとよりみち唐津街道むなかた	Q-❺	Munakata Historic Byway
かごしま風景街道	Q-❻	Kagoshima Scenic Byways
玄界灘風景街道	Q-❼	Genkai Coastal Highway
九州横断の道やまなみハイウェイ	Q-❽	Yamanami Highland Parkway
九州横断の道阿蘇くまもと路	Q-❾	Aso/Kumamoto Scenic Roads
豊の国歴史ロマン街道	Q-❿	Toyonokuni History Roads
みどりの里・耳納風景街道	Q-⓫	Green Village in Minou Mountains
別府湾岸・国東半島海べの道	Q-⓬	Scenic Area of Beppu Bay and Kunisaki Pen.
あまくさ風景街道	Q-⓭	Amakusa Islands Drive
薩摩よりみち風景街道	Q-⓮	North Satsuma Scenic Tour
島原半島うみやま街道	Q-⓯	Umi-Yama Scenic Byway in Shimabara Pen.

九州風景街道ガイドブック

人のくに、美のくに九州　Ｑ－13　あまくさ風景街道

令和　２年７月１日　　第２版

日本風景街道九州ガイドブック編纂委員会

樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉武哲信、桝谷秀秋

あまくさ風景街道担当

（文責）樗木（ちしゃき）武

協　力：あまくさ風景街道推進協議会

発　行　九州風景街道推進会議

風景街道推進会議事務局（九州地方整備局 道路管理課内）

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。